

SCOUTING

No. 582 スカウティング

2001/11

特集:団の自己診断

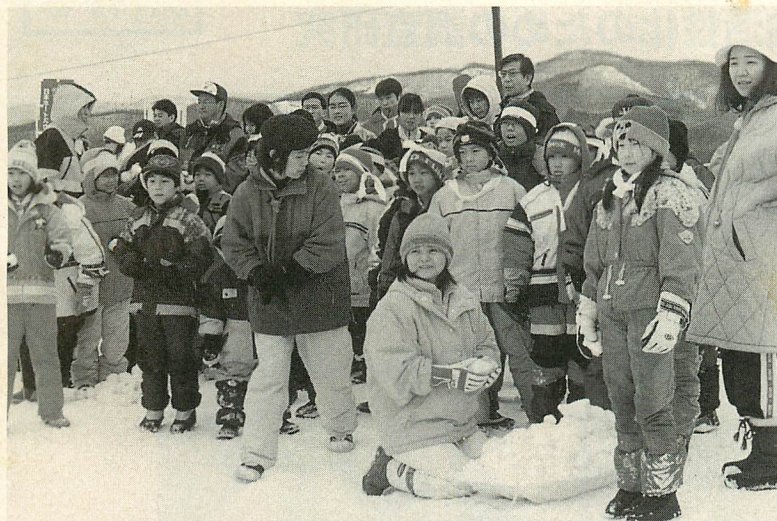




SCOUTING in SNOW

雪❄️大好き





☑ 報告	特集：団の自己診断	4
A 報告	ワークショップ開催	10
P 情報	ボランティア国際年	12
✉ 報告	ジュニアサイエンスクルーズに参加して	14
P 報告	全国全隊長アンケート調査にご協力を！	16
P 報告	難民の子どもたちに絵を送るキャンペーン	16
A 報告	世界スカウト機構の資料を読もう！	17
! P R	スカウティング2002予告	18
P 連載	Club Scout ～AQUA～	19
🦋 情報	13NJ 舞洲クリーン大作戦	28
✉ BVS	Beaver's Forum	29
P C S	カブスカウト・プログラム	30
P B S	Boys be	32
🦋 V S	Do Venture 2001	34
✉ R S	Once a Scout, always a Scout	35
! 情報	第29回全国ボーイスカウト写真コンテスト 作品募集	36
● 報告	森のなかま紹介	37
● 報告	ボーイスカウト運動のために ～維持会員加入のご案内	37
● 情報	日本連盟からのお知らせ	38
● 報告	スカウティング誌定価改訂等のお知らせ	40
📄 連載	隊長への手紙 信仰心を育むために	41
✉ 報告	新聞に載ったぞ!!	42
P 活動	SCOUTING in SNOW	2
● 広告	スカウトショップニュース	43

風の音

回想『昔と今』

北海道・旭川第18団ボーイ隊副長
種村道紀

皆さん、私はスカウト誌8月号の「スカウト3代記」で紹介された2代目の道紀です。16年振りに息子と共にスカウト活動を再開いたしました。

私が入隊した2年後、団はスカウト数が増大し2こ団に分かれました。当然女子スカウトはいませんでした。活動もワイドで指導者は事前訓練を幾度も重ね活動を展開していたことを後で知りました。また、カッコいいハットに思いを寄せる人も多かったのですが、今は副帽となっていました。当時は、進歩・進級も自ら取り組み、技能章の取得も他人と争いタスキをかけ誇りでもありました。今は余りにも意欲に乏しいように感じます。遊び（活動）を通じ今でも役立つことを沢山学びました。昔の良い事を残し、今の新しいものを取り入れ、21世紀のスカウティングを目指し、活動を続けていきます…。



スカウト活動活性化のための調査研究



団の自己診断

新しい世紀を迎えた日本のキーワードは「改革」だといわれ、連日新聞紙上にこの2文字が踊っています。官民間わず多くの組織が、自らの「健康状態」を見直し、「体質改善」に挑戦しています。私たちのボーイスカウト運動も例外ではありません。

今回ご紹介するガールスカウトと共同で行われている調査研究もそのひとつです。この特集では、昨年実施された組織内のアンケート調査の報告とともに、さらに具体的な活性化の第一歩として、本年度実施される調査のうち、団を対象とした『自己診断チェック表』についてご紹介します。改革を進め、運動を活性化するために、「まず団の自己診断から始めましょう」と呼びかけをはじめます。

(平成12年度に実施した調査の概要は、『スカウティング』7月号「日本連盟からのお知らせ」に掲載しています)

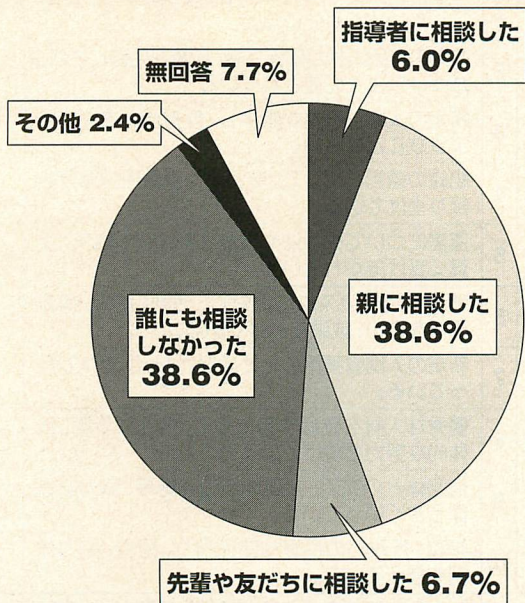
調査研究の趣旨

これまで約八〇年にわたり、日本のボーイスカウトとガールスカウトは、青少年の健全育成の名のもとに同様の目的と理念、方法により教育活動を行ってきました。しかし近年、社会の変化、とりわけ少子化などに見られる子どもを取り巻く環境の変化にさまざまな影響を受けており、その中でも加盟員の減少は深刻な問題になっています。ノン・フォーマル教育の重要性が認識されつつある昨今、両団体の運動への参加人数が減少し、多くの団では組織の運営も困難な状況が続いています。

このような傾向を受け、「スカウト運動に対する社会のニーズ、期待感はどうなのかなのか」「問題点として何ががあるのか」を、スカウト、指導者、保護者など、内部の関係者に対するアンケート調査の形式でまとめたのが、『ボーイスカウト・ガールスカウト活動活性化の為の調査研究について』です。全国の両団体各一五〇団を対象に実施されたアンケートの結果がまとめられています。

※平成13年6月1日に県連盟、県コミッショナー等に配布しています。

スカウトを辞めたいと思ったとき 誰に相談をしましたか？



そのときボーイスカウトの指導者は…

- 「理由を聞き本人の意志にまかせた」……33.2%
- 「説得した」……27.6%
- 「相談を受けたことがない」……26.2%

スカウトの意識について

ビーバーあるいはカブ部門から入り、以後それぞれにボーイ、ベンチャー部門へと上進しているだけに、スカウト活動への評価は概して高く、また、スカウト活動の目指すべき目標、方向に自然と向かっていると思われる。このように長期間活動を継続し、参加しているということは、隊活動が活発に行われ、プログラムもある程度満足のいくものが提供されているのであろう。さらに、同じ活動を通じて得た友だちがいることもひとつの要因のようである。

ただ、多くのスカウトが塾や学校のクラブ活動との両立に苦心しつつ、加えて友だちとの交流など非常に忙しい生活を送っている。約半数近くのスカウトが過去に「活動を辞めたいと思った」ことがあるが、その原因として、学校のクラブ活動、勉強の妨げになると答えている。個人のスケジュールでも学校のクラブ活動、塾などが優先され、いわゆる中途退団に関しては、過去に調査を行った際の要因と一致している。

今回のスカウトたちはそれ以後も活動から離れることなく継続しているが、辞めたいと思ったときに「誰にも相談しない」スカウトが40%近くおり、しかも「指導者に相談した」が10%に満たない状況である。今後、なぜ相談しないのか、その原因を追及する必要がある。保護者に加え、指導者からの適切な助言、指導があれば、最近顕著に聞かれる中途退団へのある程度の歯止めが可能ではないだろうか。

活性化を阻害するもの

組織拡充を目指す両団体が、運動の活性化のために今後どのような方向に進んでいけばよいのか、スカウト運動のあるべき姿を考察する内容の報告書となっています。

この報告書ではスカウト運動の活性化を阻害している要因として、次の四項目をあげています。

1 プログラム面の問題として

● 個人を大切にし、見守る、責任を与える、最後まで実行させる、自己評価をさせる、意志をよく聞く
—— ようになっていない。

● 青少年にインパクトを与えるプログラムが開発されていない。

2 指導者の問題として

● スカウト運動の価値を提供する責務を果たせない。

● 仕事の忙しさに加えて、スカウト活動への関与などに時間をさき、孤軍奮闘の状況で余裕がない。

3 青少年を取り巻く問題として

● 多忙なスケジュール(学校、塾、クラブ、友人関係等)に追われている。
● グループ活動が苦手。

● 自己表現を希求しつつも、他の人から特別視されることや、孤立感に対する恐怖心を持っている。

4 保護者および家庭の問題として

● 多様な価値観に振り回され、子育てに対する自信を喪失している。

● 学歴社会を引きずった教育に熱心であり、早急に結果を求める傾向がある。

● 子どもには何事にも無難な生き方を期待している。

以上のような問題点を想定しつつ、スカウト、指導者、保護者に対するアンケートを実施した結果、取り組むべき課題を明確化しました。

スカウト運動は明確な目的、理念、方法を持ち、世界的な団体として実践されています。しかし、その根幹となるべき活動内容は広く社会に認識されておらず、また、この運動を担う指導者の理解が不足している状況にあることが、活性化の阻害要因の重要な部分ではないかと思われます。教育的効果の高い野外での活動体験を主要な場面として設定していますが、このことが、野外での活動の楽しさや、そこから得られるものが

3 保護者について

	設 問	評 価
I 団と保護者の関係	1 スカウトとその保護者は、互いにメンバーの顔と名前を知っている。	
	2 保護者のための電話連絡網を作成し、うまく活用している。	
	3 定期的に保護者との会合を開き、連絡、報告の他に意見を交換している。	
	4 保護者に対して活動のおしらせや報告を行う広報誌、または、通信を発行している。	
	5 活動に対して保護者は積極的にサポートしてくれている。	
II 教育理念の理解度	6 基本的に保護者はスカウト運動の理念や教育方針を十分に理解している。	
	7 我が子にスカウト活動をさせることに、保護者は教育的な意味を感じている。	
	8 スカウト活動を通して、我が子は(他の参加していない子に比べて)成長していると感じている。	
	9 保護者として、学習塾や他のサークル活動より、スカウティングの方が価値が高いと感じている。	
	10 プログラムの内容について、教育的ねらいを保護者はよく理解している。	
III 協力への意識	11 スカウト活動が、学校や地域に対してよい影響があると保護者は考えている。	
	12 我が子がスカウトであることを、学校や地域の人々に積極的に話している。	
	13 スカウトの活動や行事への参加を、地域の人々等と呼びかけてくれている。	
	14 組織を拡充するためのキャンペーンに、保護者としてよく協力してくれる。	
	15 何らかの理由で子どもが「辞めたい」と言っても、引き止めてくれそうな保護者が多い。	
IV 活動へのかかわり	16 スカウト運動を続けていると、進学や就職に有利だと考える保護者が多い。	
	17 保護者の中から、指導者への道を希望する者が多い。	
	18 兄弟姉妹もスカウトとなり、家族ぐるみで運動に参加している例が多い。	
	19 父親も、母親と同じかそれ以上に関心を持ち、活動に協力してくれている。	
	20 登録料、活動費、制服、需品関係の費用については十分に説明を行い、理解を得ている。	

4 団運営について

	設 問	評 価
I 団の基本構成	1 年間計画が立てられ、それに基づいてスケジュールが決められている。	
	2 能力のある人材が確保され、役務が明確にされ、バランスよく配置されている。	
	3 特定の人物に役目が集中し、負担が大きくなるようなことはない。	
	4 組織の運営に関して、若い人や少数派の意見も採り上げている。	
	5 運営についての手法や段取り等は、代々の団委員に受け継がれている。	
II コミュニケーション	6 地域社会やマスコミに対し、活動のPR、情報提供を行い、成果をあげている。	
	7 新規の入団者獲得のための努力を、団全体で行っている。	
	8 優秀な人材を確保するために、情報収集等、具体的な努力を続けている。	
	9 他団体との交流、共同作業の実施等、協力関係はうまくいっている。	
	10 学校、行政との良好な関係作り、連絡、協力体制を整えている。	
III 組織の体質	11 スカウト関係者すべてが団運営に関わり、高い意識を持って取り組んでいる。	
	12 団委員は、スカウト運動の理念を理解し、務めに対して責任を持っている。	
	13 団委員は、世界や日本連盟が示す教育方針に対して自分の意見を持っている。	
	14 定期的に団の運営状態についてのチェック、見直しを行っている。	
	15 若い人が発言できるような風通しのよい組織となっている。	
IV 管理と運営	16 活動、団の運営のために、必要な資金が十分に確保されている。	
	17 各家庭に負担を願う活動費の額は、適正な範囲である。	
	18 収支、財政管理は健全に行われ、保護者に正しく報告されている。	
	19 財政面を充実させるための方法を、指導者、保護者、団委員で話し合っている。	
	20 これまでに金銭トラブルや保護者からの苦情はない。	

多くあることなど、スカウト、保護者に共通に認識されていることは、アンケートの集計結果からも明らかです。野外活動を中心とする体験活動は、青少年に最適な資質向上の場面であることは明白と思われます。

ただし、この教育の効果の最終目標は、青少年から成人に至る過程での、野外活動などの体験を通じた「性格(品性)の開発、自己開発」であり、自主的で、責任を伴い、実行力のある人間像を目指すものです。この最終目標への理解がスカウト、保護者や地域社会に明確に認識されておらず、そのことが中途退団や、あるいはスカウトであることに誇りを持つことに対する阻害要因になっているように思われます。

問題の連鎖

このような状況にあつて、活動の現場においても、「スカウトたちの興味や関心にあつたプログラムが実施されているか」、あるいは「スカウトたちが主体性を持って活動に参加できているだろうか」という悩みを多くの関係者が抱えています。スカウト

1 スカウトについて

	設 問	評価	
I プログラムへの参画	1	プログラムの立案には、スカウトたちの意見が十分に取り入れられている。	
	2	進歩制度やバッジシステムが、スカウトたちの励みになっている。	
	3	スカウトたちは、プログラムで体験したことを家族や友だちに楽しそうに話している。	
	4	現代の子どもたちの感性や興味にあったプログラムを提供できている。	
	5	実施したプログラムの反省会に、スカウトたちが参加している。	
II スカウトとしての意識	6	スカウトたちは、制服を着ることに喜びと誇りを感じている。	
	7	スカウトたちは、現在実施されているすべてのプログラムの目的を理解している。	
	8	スカウトたちは、指導者の助言を受けながらも、自主的に活動している。	
	9	スカウトたちは、自分たちの姿が他者から「カッコイイ」と見られていると思っている。	
	10	スカウト活動をしていることで、友だちが増えると思っている。	
III 活動に対する自覚	11	スカウトたちは、奉仕の意味をよく理解し、進んで活動をしている。	
	12	現在スカウトたちにとって、スカウト活動を行うことが一番の楽しみである。	
	13	スカウトたちは、運動に参加したことが大人になったときに役立つと思っている。	
	14	現在のスカウトたちの中に、将来指導者になりたいと思っている者がいる。	
	15	言い訳をしては集会を休んだり、活動に積極的でないスカウトはいない。	
IV 登録の状況	16	各部門に適正な人数のスカウトが在籍し、活動に支障はない。	
	17	毎年、現状の加盟人数をキープする程度の新入団者がいる。	
	18	定期的に開かれる集会へのスカウトの出席率は高い。	
	19	部門間の交流・連絡はうまくいっている（異年齢間の活動）。	
	20	特別な場合をのぞけば、中途退団するスカウトの数は少ない。	

2 指導者について

	設 問	評価	
I 指導者としての資質	1	すべての成人指導者が、運動の理念と基本方針を十分理解している。	
	2	指導者は全員、スカウトやその保護者から信頼され、尊敬されている。	
	3	社会教育の専門家として自覚し、子どもを取り巻く環境についての情報には敏感である。	
	4	野外活動の知識や技能に優れている、あるいは身につける努力をしている。	
	5	健康管理、体力維持に努め、いつもスカウトと共に行動している。	
II 指導者としての意識	6	指導者として、国際交流活動に興味を持ち、必要な準備を進めている。	
	7	他の青少年団体との違いや、独自の教育方針、活動の特性を話すことができる。	
	8	指導者として、「リーダーシップとは何か」という問いに、明快な答えを持っている。	
	9	指導者は、自身の職業においても確たる実績を残し、社会に貢献している。	
	10	指導者は、自身の家族とのコミュニケーションも良好で、スカウトを指導することへの理解を得ている。	
III 情報収集能力と積極性	11	スカウト年代の子どもが好んで観るテレビやマンガ、流行歌の話題についていける。	
	12	スカウトに常に新しい興味を持たせるように、様々なジャンルについて勉強している。	
	13	一般常識的な範囲であれば、スカウトから質問されても困らない自信がある。	
	14	教育界の動きに関心を持ち、責任と信念を持ってスカウトに接している。	
	15	成人指導者は、互いに活動の質を向上させるための情報交換や勉強会等を行っている。	
IV 指導者の人間性	16	すべてのスカウトたちに対して、平等に接し、個性や才能を引き出してやれると思う。	
	17	スカウトの悩みや苦しみを親身になって聞き、適切なアドバイスができる。	
	18	指導者間で、知識や技能を伝え合うだけでなく、スカウトへの接し方等も話し合っている。	
	19	学校の教師よりもスカウトの指導者の方が、子どもたちから好かれている。	
	20	地域の人々から、善良な市民としてその存在を認められ、信頼されている。	

自己診断のねらい

前記の調査研究を受け、さらに具体的な活性化の第一歩を目指すものが、ここで紹介する『自己診断チェック表』です。

ボーイスカウト、ガールスカウトの両団体が、活動現場の団レベルでの健全な活動、組織運営がなされているかをチェックすることを想定して作成を試みているものです。運動

たちがより良い活動をするには、指導者、保護者、団の運営の状態といった周囲の環境を整えることが大切です。問題は、それぞれに単独で存在しているではありません。

諸問題が連鎖的に存在するスカウト運動にあって、現状を打破し、活性化のための方策を立て、実行に移すことは急務です。

そのための第一歩として、まず運動に参加している一人ひとりの意識向上を目指し、現状をより正確に把握し、その問題点を明確にするために、各団における『自己診断』から始めてみる必要があるのではないでしようか。

スカウト活動活性化のための調査研究

(平成12年度の調査研究より)

□保護者の意識について

スカウト活動には小学校低学年から子どもを参加させ、半数以上の保護者が何らかの形で運動に参加をした(現在も参加している)経験を持っている。

子どもの入団に際し、多くの保護者がスカウト活動の目的、活動内容についてまで十分に理解してはいるが、他の青少年団体と比較してスカウト活動へ好感を持って入団をさせている。

スカウト活動には、「学校や家庭では得られない体験」「体験をとおしての協調性、責任感、他人への思いやり」「自然との親しみ」などを期待しており、多くの保護者が期待していたことにはほぼ満足している。

また、長くスカウト活動を続けたことにより子ども自身が変化し、その内容も保護者がスカウト活動に期待していたことと同じ内容と答えていることは評価される。自分の子どもには、スカウト活動をとおして地域社会に役立つ人、自分の能力を発揮できる人になってもらうことを期待している。

ここでもスカウト活動の社会での評価は「認められている」と「認められていない」が半々となっており、PRの促進やプログラム開発を求める声が多く出されている。

□指導者の意識について

指導者は、年代では40~50代、指導者の経験年数10年以上、60%がスカウト活動の経験を持っていない。今回の調査では、標準人数を満たしていても、活動自体は活発に行っているところが多いように見受けられる。プログラムについても、各々の指導者がスカウトのニーズにあわせる形でいろいろと工夫を凝らし、実施している。

また、現在の社会情勢を反映してか、指導者の確保には種々苦労があるようだ。指導者のなり手がなかなかおらず、このためにレベルが下がっているとすると、指導者の確保、養成を含め今後の対策が重要になってくる。

多くの指導者が、スカウト運動の目的、理念についての理解を持ち、「ちかい」「やくそく」「おきて」を日々の生活の中で実践するよう心がけている。

しかし、こうした指導者の努力にもかかわらずスカウト運動自体が社会にはなかなか認められていないと感じており、今後の活性化のためには、青少年にあったプログラム開発、質の高い指導者の養成を進めつつ、学校や地域社会、行政との連携を強化することが重要な方策と考えている。

の基本、教育方針に関連した設問、日常の心構えや取り組みの意識についての設問を短い文章で用意し、簡単に回答できるようにしています。

六〜七頁の表を見ていただければわかりますが、設問のシートは「1」スカウトについて「2」指導者について「3」保護者について「4」団運営について「5」の四種類。それぞれに、二〇ずつの設問を用意しています。さらに、問いの傾向によってI〜IVにグループピングされています。例えば、「1」のIのグループ1〜5では、スカウトのプログラム参加について、関連した問いが並んでいます。

あくまで自己診断ですので原則として誰が記入してもかまいませんが、団の運営にあたってはいる団の代表者、指導者の中心的な人に、「うちのスカウトはどうだろう…、保護者はどうだろう…」と考えながら記入していただくことを想定しています。

評価の方法は三段階。「A」あてはまる「B」ややあてはまる「C」あてはまらないで記入していただきます。目安として「A」5ポイント「B」2ポイント「C」0ポイント



で合計ポイントを出し、その団が、どのあたりに問題を抱えているかわかる手がかりとしていただきます。

ただし、点数の高さを競うものではありません。もちろん用意された設問ですべてがわかるといってもありません。

コミュニケーションの芽生え

例えば、団委員の方が数人で話し合いながら記入したり、指導者、保護者など立場の違う人々が各々に記入し、評価の違いを話し合ったり、スカウトたちにインタビューしながら

スカウト運動の原点

ボーイスカウト・ガールスカウト活動活性化調査研究

検討委員会委員 牛山佳久

(ボーイスカウト日本連盟副総コミッショナー)

昨年度に引き続き、本年度も文部科学省の調査研究助成事業として、ボーイスカウト・ガールスカウト運動の「活性化に関する調査研究」を行うことになりました。

文部科学省をはじめとして関係各方面から、日本の青少年教育においてボーイスカウト・ガールスカウト運動の社会に果たすべき役割は大きく、その「活性化」は急務であるとの認識と期待があります。両連盟としては、それに応える責務があるのです。

昨年度は組織内の意識調査を中心に行い、今年度は別記のとおり「団の自己診断」を中心に、「活性化」を検討していくための「団の実態把握」と、「自己診断による問題点の把握」を行うことになりました。

もとより、「活性化」のためには組織全体として、日本連盟、県連盟、地区での「自己評価」と活性化の方策の検討は欠かせないものです。日本連盟本部の「評価」もするべきであるとの、外部の委員の方々からの指摘もあります。

これは日本的な風土の特徴かもしれませんが、ボランティアを中心とする運動の場合には、「自己診断」や「評価」をあまり重要視してこなかった性質がありました。しかし、これらの「自己診断」や「評価」を明確にすることで、自らの組織が本当にスカウト運動の目的・原理・方法に合致しているのか、青少年の「性格の開発」に役立つプログラムが提供され、保護者や地域に受け入れられているのかなどを検証し、改善のための方策を立てることが、必要なことであろうと考えます。

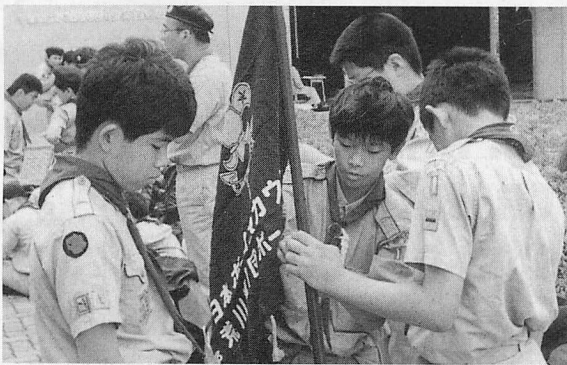
日本連盟でも、「長期戦略計画策定委員会」を設置して、現在二〇〇二年三月の答申に向けて、様々な議論を行っています。まもなくその戦略の内容が明らかになると思います。

今は、それぞれの役割を通じて、「自己診断」「評価」を明確にするべきです。その結果として、何を為すべきかが明確になるでしょう。

創始者B-Pは一九三九年に、「スカウト訓練において、我々は前途に

より高い目標を掲げるようにして、手段にあまり心を奪われないようにしよう。(中略)精神面より技術面にウエイトをかけすぎないようにすることである。(中略)最終目標は性格である。すなわち目標を持った性格である」と述べています(B-Pの展望) 於保信義訳。

「自己診断」や「評価」を通じて「スカウト運動の原点」とは何かを検証し、両連盟の「活性化」を目指していきたいと考えております。



ら記入したりといった感じで、団内に新しいコミュニケーションが芽生えればよいと考えます。

この「自己診断チェック表」と向かい合い、各団において何ができていのか、どこが弱いのか、足元を見直す機会としていただければ幸いです。

活性化スパイラル

現在のスカウト運動は、困難な状況がさらに次の困難な状況を生んでいます。「活動内容があまり知られていない」▼「参加する人が増えない」▼「おもしろい活動ができない」▼「といった具合いです。

これを何としても逆向きにし、活性化スパイラルを生み出さなくてはなりません。すなわち、「理念や教育方針を周知し、活動の実践を広く社会に認めてもらう」▼「加盟員を増やし、組織を拡大する」▼「活動のプログラムをより充実させる」▼「...という良い方向にまわしていきたいものです。『自己診断』はそのための第一歩です。ここに掲載したチェックシートを参考に、各団でアクションを起こしていただきたいと考えます。

ワークショップ開催

誰

このワークショップの目的は、スカウト運動の本質そのものを課題とし、指導者たちの意見交換、討議をとおして、使命を達成するために何に着手し、そして誰を対象に行うかを考える徹底的な思考プロセスの構築にあります。

何

スカウティングの使命達成



**SCOUTING FOR WHAT?
SCOUTING FOR WHOM?
ACHIEVING THE MISSION OF SCOUTING**

2001.10.6~10.8 東京・ボーイスカウト会館

のためのスカウティングか？

のためのスカウティングか？

去る一〇月六日から三泊三日の日程で、東京・ボーイスカウト会館においてワークショップが開催されました。

「何のためのスカウティングか？」
「誰のためのスカウティングか？」および「スカウティングの使命の達成」というタイトルのもとに、運動の本質にもかかわる重要な課題についての討議が行われました。左頁の日程表を見てもわかるように豊富な内容となり、参加者の皆さんにとっては、意義ある充実した体験となったのではないのでしょうか。

このワークショップは、県連盟の正副コミッシヨナー、中央審議会議員、日本連盟の委員会委員を対象に開催され、全国から二四人が参加しました。これまでに、このようなワークショップ形式で、全国から指導者が集まって課題研究に取り組むといった例は、ほとんどありませんでした。二二世紀の幕開けにあたり、運動の改革の方向性を探る意味でも、今回の試みは注目されていました。

「何のため——誰のため——」は、元々第三四回世界スカウト会議（一九

ワークショップ日程表

	10月6日(土)	10月7日(日)	10月8日(月)
8:00	 <p>参加者集合</p>	朝食	朝食
9:00		セッションⅣ グループ発表 「何のためのスカウティングか」 < 休憩 >	セッションⅢ-2 全体討議 「スカウティングの使命の達成A~C」
10:00		導入Ⅲ 「誰のためのスカウティングか」	セッションⅣ グループ討議・全体討議 「スカウティングの使命の達成・行動計画」
11:00		セッションⅤ グループ討議 「青少年の世界」	ワークショップまとめ 質疑応答 閉会式
12:00		昼食	解散
13:00	開会式 グループ編成 他	セッションⅥ グループ討議 「運動の影響を及ぼす」	
14:00	導入Ⅰ 「第34回世界スカウト会議について」(VTR) < 休憩 >	セッションⅦ グループ討議 「全ての青少年の運動」 < 休憩 >	
15:00	導入Ⅱ 「何のためのスカウティングか」	セッションⅧ グループ討議の発表と全体討議 「青少年の運動」	
16:00	セッションⅠ グループ討議 「個人的側面」	夕食	
17:00		導入Ⅳ 「スカウティングの使命声明を達成するために」	
18:00	夕食	セッションⅠ グループ討議 「目的・目標について」	
19:00	セッションⅡ グループ討議 「社会的側面」	セッションⅡ グループ討議 「使命声明の理解」	
20:00	セッションⅢ グループ討議 「個人としての関わりと責任」	セッションⅢ-1 グループ討議 「スカウティングの使命の達成A~C」	
21:00			
22:00	消灯	消灯	

九六年ノルウェー・オスロにおいて取り上げられた課題研究で、一定の成果が認められたものです。その手法を各国でも利用し、多くのスカウト関係者がこの議論と思考プロセスの構築に参画することを目的として、進められたものです。

「——使命の達成」については、第三五回世界スカウト会議（一九九九年南アフリカ・ダーバン）において採択された『スカウティングの使命声明』を受けてのものであります。今回のワークショップでは、日本の指導者がこの使命声明を深く理解し、問題点を検討し、達成のための第一歩を踏み出すことを目指しました。

過去二回の世界スカウト会議によって提示された大きなテーマを、凝縮してコンパクトにまとめた形となつた今回のワークショップでは、活発な意見交換が行われ、多くの情報やアイデアがもたらされました。しかし二泊三日の日程では最終結論のような答えが求められるものではありません。スカウティングの原点ともいえる本質的な課題へのアプローチは、始まったばかりです。

ボランティア国際年



青年のためのボランティア活動への誘い

ボランティア国際年にあたって他団体で取り組まれている活動の事例をいくつかご紹介いたします。

各団体では、それぞれに独自性を出しながらもいろいろな事業を展開しています。参考にしてください。

事例1

フィリピンへ

SYD青年部(財)修養団

「幸せの種まき運動」の一環として、一みんな同じ地球の子を合言葉に、世界の恵まれない子どもたち(特にストリートチルドレン)の支援活動を行っています。その一つであるフィリピンの恵まれない子どもたち(スカベンジャー)が学校も行かずに働いているバヤタスのゴミ捨て場やマニラのストリートチルドレンセンター等を本年八月に訪問し、ボランティア活動・ふれあい活動を行いました。さらに、現地青年団体との交流活動を行うとともに現地の文化史跡に触れ訪問国への理解を深め、また、事後「私たち青年にできること」「恵まれない子どもたち」等をテーマにしたまとめをSYD機関誌等で発表するなど、今後の青年ボランティア

活動の一層の発展に資することを目指して実施しました。

事例2

ぼらんていあ・めっせ

東京ボランティア・市民活動センター

「東京発！二世紀のボランティア文化を創り出そう」を合言葉に開催を予定しているのが、「ぼらんていあ・めっせ」です。

一二月の八日と九日の二日間。八日の土曜日は、代々木公園のイベント広場で、国際支援・環境NGOなどの活動を紹介する展示ブースや、歌やダンスのパフォーマンス、体験型のアトラクション、フリーマーケットなど盛りだくさんのプログラムが用意されます。

翌九日の日曜日は、星陵会館、日比谷高校などを会場に、ワークショップや各種フォーラムが計画されています。

市民の一人ひとりがボランティアについて考え、自らが社会の担い手であると認識し、そのための一歩を踏み出すためのきっかけとなることを目指して、このイベントの準備はすすめられています。

ボランティアやボランティア国際年に関するホームページを見てみよう。

「2001年ボランティア国際年推進協議会」

<http://www.iyvj2001.org>

「東京ボランティア・市民活動センター」

<http://www.tvac.or.jp/>

「地球環境パートナーシッププラザ」

<http://www.geic.or.jp/geic>

「国際協力NGOセンター」

<http://www.janic.org>

事例3

ファミリーボランティア

(社)日本青年奉仕協会

親子で参加できるボランティア活

動プログラムを開発し、そのような活動の意義を広く知らせて普及していくことを目的として実施しました。

現在、家族の触れ合いの希薄化、また家庭の教育力の低下が叫ばれる中で、家族間の絆の回復が重要な課題になっており、その手段としてファミリーボランティアが有効であり、また、ボランティア活動者の裾野を広げていく上で、家族で参加できるプログラムを開発し、普及していくことは有効であると考えています。

一. ファミリーボランティアアドバイザー養成講座

親子で参加できるボランティア活動プログラムを開発し、地域資源をコーディネートする役割を担う人材を養成するもの。

●プログラム／ファミリーボランティア概論、実践事例の紹介、フィールドワーク、シエリング、ワークショップ(素材収集・整理、プログラム開発)

二. ファミリーボランティア体験キャンプ「おやこdeボランティア」

実際に親子で参加、体験することのできるボランティア活動プログラム。

市民の手による博物館づくりをすすめている「心に刻むアウシユビツ平和博物館」(栃木県塩谷町)で本年八月に活動しました。ファミリーで「平和」を考え、共に「作る喜び」を共有することができました。

ビデオ紹介 企画 日本青年奉仕協会	
はじめよう ボランティア学習	まちに出よう ボランティア学習
20分 ¥40,000 (税別)	20分 ¥40,000 (税別)
この作品では、小学生たちが学校や地域で生き生きと体験学習を進め、活動が楽しく広がっていく姿を紹介しています。児童一人ひとりが、ボランティア学習に関心をもち、自ら学び考える「生きる力」を育て、豊かな人間性や社会性を培っていくことを願って製作されたものです。	この作品は、総合的な学習の時間などを利用したボランティア学習の進め方を具体的に示し、小学生一人ひとりが自ら考え、行動する力を身につけることができることについていく姿を紹介しています。
◆お問い合わせ (株)リュック 03-3377-3200(代)	

事例4

アピール採択

(社)中央青少年団体連絡協議会

大人の手ではなく、青少年の手に

よるボランティア活動の取り組みを基本方針とし、(社)中央青少年団体連絡協議会に加盟する青少年諸団体が参加して行ったボランティアに関するアンケート調査には、小中高年生計三〇〇人以上の協力を得ることができました。また、事業の第二段階として本年一月に開催した二日間には「アピール採択会議」には、関係諸団体に所属する小中高生の代表が参加し、アンケート調査結果を分析するとともにその実態の考察を行いました。分科会や全体会形式での熱心な話し合いを繰り返した後、「アピール」誰かにつなげて見えない感謝の採択に至りました。

青少年によるアピール採択会議は、

小学生、中学生、高校生の三つのグループに分かれて分科会を開き、そのまとめを全体会で発表するというプログラム構成で行いました。

分科会を始める前に、この一泊二日をボランティアに過ごすことを提

案し、各自が自発的にボランティアの実体験をしながら話し合いに参加することを試みました。

分科会での話し合いをより充実させるために、また目的を明確に共有するために、アンケート調査結果の読み取りを導入とし、その後若いファシリテーターを中心に、グループ討議を行いました。

グループ討議全体を通して振り返って見た時、小学生―具体的な自分自身の実体験を発表し合う。

中学生―自分以外のメンバーのボランティア活動に対して深い関心を示す。高校生―ボランティアということばの概念を理解するための深い掘り下げをする。

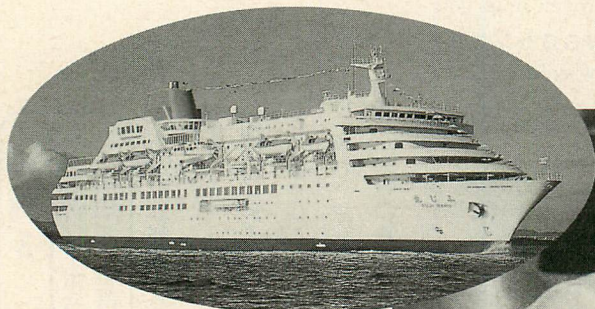
というような青少年の心の成長を示す、年代に応じた特色が顕著に現れていました。

また、どのグループも全員が自分の意見を持ち、真剣にこの話し合いに取り組めたというところは、日頃それぞれの団体で活動している子どもたちであったからであると思えます。

ジュニアサイエンスクルーズに参加して

報告

文部科学省発足・子どもゆめ基金創設 記念事業



ふじ丸 (23,340トン)

Junior Science Cruise



虫型ロボットコンテストに参加



船上でのスタンツ練習

「アトランティス・サブマリン」乗船
自然学習活動
先住民文化学習活動
海洋自然学習活動
野外体験活動
文化交流会

他

東京・小平第一団副団委員長 武藤眞仁

去る八月一八日(土)から二六日(日)まで財団法人世界青少年交流協会主催の「ジュニアサイエンスクルーズ」にスカウトとともに参加しました。

ジュニアサイエンスクルーズは、

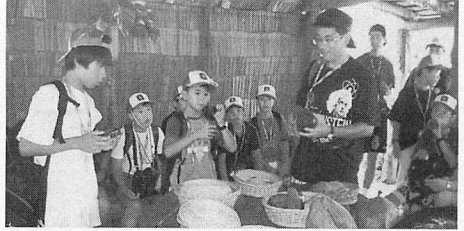
小学五年生から中学二年生までの青少年を対象に、洋上での科学技術体験活動やグアム島での自然体験活動をとおして、子どもたちが科学技術や理科に対する興味関心を高め、自然のすばらしさ、共存する事の大切さを学ぶ機会を提供する目的で、文部科学省の発足を記念し、「子どもゆめ基金」を活用して行われたもので、全国から四八〇人の子どもたちを集め、二グループに分け、開催されたものです。四八〇人の子どもたちのうち、東京・大阪・茨城から合わせて四〇人のスカウトが参加し、また派遣団長として参加された杉原正日本連盟理事(社)中央青少年団体連絡協議会副会長)をはじめ、六人の指導者が参加しました。

一八日(土)に結団式の後、関西国際空港から空路グアム島に。グア

ム島では二三日(水)までの四日間、さんご礁の海での活動や潜水艦(観光用)での海底探検、グアムの先住民の文化に触れたり、現地の子どもたちとの交流活動などを精力的に行いました。

後半の二二日(水)から二六日(日)までの五日間は、外洋客船「ふじ丸」(二三、三四〇トン)の中での光や電気を使った科学実験や、コンピュータやロボットにプログラムを入力してのゲーム、また航海術や満天に輝く南の空の星座観察などのプログラムを選択プログラムとして体験しました。さらには、フルコースの食事でのテーブルマナーの勉強をする機会もありました。

海外でのプログラム、洋上での生活など、日常生活や通常のスカウト活動では体験できない貴重な機会を得、またボーイスカウト以外の青少年団体の子どもたちとの交流や、国際交流の機会をスカウトたちに提供することができました。参加したスカウトたちにとっては貴重な人生経験になったことと思います。



先住民「チャモロ」の文化体験

東京・渋谷第一団ボーイ隊 花淵裕一

ぼくは、八月一日から二六日まで、世界青少年交流協会主催の『ジュニアサイエンスクルーズ』に参加しました。

参加者は、四八〇人で、それぞれ二四〇人ずつに分かれて一つは「エメラルドグループ」もう一つは「スカイグループ」です。
ぼくは、「スカイグループ」に所属して、行きは、関西国際空港から飛行機で、帰りは「ふじ丸」という日本のお大きな船に乗って来ました。

「スカイグループ」の団長は、ボイスカウト日本連盟の杉原前総コミッショナーでした。

ぼくたちは、団長さんの部屋へ遊びに行ったりして楽しい時を過ごすことができました。

グアムでは、プライベートビーチに行ったり、豚の丸焼きを食べたりまた、フルーツパークでは、イカの味がするココナッツの刺身を食べました。

グアム大学では、グアムの子どもたちと、エメラルドグループの人たちとでゲームをしたり、グアムの人たちと英語でお話をしたりして楽しい時を過ごしました。

エメラルドグループの人たちは、行きの船では、台風の影響でほとんど船酔いで食事が食べられなかったと言っていました。

サブマリンでは、魚がいっぱいダイバーの人が魚にえさをあげているのを見ることができました。

また、スーパーマーケットにも行き、日本よりミルクやジュースが大きく、値段も二リットルで一ドル九セセント程でした。

「子どもゆめ基金」とは？

21世紀を担う子どもたちの健全な育成のために、国民、企業など民間の役割が不可欠であり、とりわけ草の根的な運動を含め、地域における民間主導の活動は極めて重要である。

他方、21世紀を担う子どもたちを育てるのは、社会全体の責務であるという考え方が広まりつつあり、民間主導の基金の必要性が議論されるに至っている。

こうした状況を踏まえ、21世紀を担う子どもたちの健全な育成のための民間の青少年団体の取り組みを支援するため、国と民間が力を合わせて資金を拠出する「子どもゆめ基金」を国立オリンピック記念青少年総合センターに創設し、民間主導による子どもの健全育成のための諸活動に対して助成を行うものである。

「ジュニアサイエンスクルーズ」とは

「子どもゆめ基金」創設を受け、21世紀を担う子どもたちの健全な育成のため、洋上並びにグアムで科学技術や自然に触れることおよび集団生活を通じて、自然の素晴らしさや共存することを学ぶ機会を提供するとともに、子どもの「科学技術」や「理科」に対する関心を高めることを目的として実施される事業である。

実施概要

- 事業委託機関：国立オリンピック記念青少年総合センター
 事業主催：財団法人 世界青少年交流協会
 協力団体：社団法人中央青少年団体連絡協議会および加盟青少年団体
 科学技術振興事業団（JST）
 海洋科学技術センター（JAMSTEC）
 後援：文部科学省
 実施期間：2001年8月18日（土）から26日（日）まで（8泊9日間）
 寄港地：グアム
 活動内容：① 洋上並びにグアムでの科学体験
 ② 海や船に関する様々な学習
 ③ グアムでの自然体験
 ④ グアムの子どもたちとの交流
 ⑤ 洋上並びにグアムでのレクリエーション活動
 ⑥ その他

帰りの船の中では、各コーナーがあり虫型ロボットや船の色々な所を見学したりして楽しい船旅を楽しむことができました。
グアムはとて面白い所で、人もやさしい人ばかりでした。
このクルーズに参加して思ったことは、多くの友だちができたことです。
特に、東京から参加した他のボーイ

イスカウト班の人たちともすぐに仲良しになり楽しい日程を過ごすことができました。
これも、ボーイスカウトに入っているおかげです。ききな仲間に出会えたことです。
特にグアムでは、言葉が通じなくても心が通じていると思いました。
また、グアムへ行こうと思います。

全国全隊長アンケート調査にご協力を！

P 報告

日本連盟プログラム委員会 委員長 谷口 修

一〇月一二日付で全国の全隊長宛に各部門の活動アンケートを、団を通じてお送りしております。

この調査では、各部門の隊のスカウト数や上進、入隊、退団状況、隊長の経歴、隊指導者の数、集会の内容や開催頻度、進歩、スカウトの活動への支援、組織に関する事など、プログラムを中心に据えた幅広い質問項目を設けています。これにより各部門およびボーイスカウト全体の現状について分析するための基礎データを収集することができます。

アンケートの締切は一月三〇日で、返送された回答は順次集計され、年明けには分析を開始します。このアンケート調査の結果と、本年五月に発行された、スカウト・保護者を対象とした調査「ボーイスカウト・ガールスカウト活動活性化の為の調査研究について」の結果や各種統計資料等を総合的に分析し、日本のボーイスカウト運動の現状を知るための「スカウト白書」(仮称)として目に見える資料にまとめ、考えられるいろいろな方法で公表することにしております。

日本連盟では、この資料をプログラムの開発、指導者養成の在り方を始めとする各種見直しや検討作業の基礎として活用し、さまざまな有効な提案に結び付けていきたいと考えています。

過去に、全隊長を対象とした同様の調査を平成四年に実施していますが、今後三年または五年に一度など、定期的の実施していきたいと考えております。

調査の対象であります各隊長の皆様には、それぞれご自身の置かれてある状況についての情報提供をしていただくことで、ボーイスカウト運動の全国的な状況を浮き彫りにするこの事業に是非ご協力いただき、その結果をそれぞれの隊の運営に役立てていただきたいと思います。

「各部門活動アンケート」

締め切り：11月30日

返信用封筒（切手不要）に、
回答を記入した質問用紙を
入れてご返送ください。

難民の子どもたちに絵を送るキャンペーン

標記キャンペーンにつきましては、全国からスカウトの絵423点、クレヨン48箱が集まっております。

本年5月には、「国境なきアーティストたち」から届いた、絵を送ってくれたスカウトに対するお礼と、スカウトの絵をスリランカの難民の子どもたちに届けたいという予定についてホームページ上でお知らせしました。

その後、「国境なきアーティストたち」では、9月または10月に絵とクレヨンを持ってスリランカに行くための努力を続けましたがなかなかうまくいかず予定が延びていました。

スリランカに入国すること自体は問題ありませんが、長期間滞在して活動することや、クレヨン、折り紙、学用品など、「国境なきアーティストたち」に寄付された品物を持ち込むためには、スリランカの然るべき団体などからの招待状がないと特別なビザがスリランカ政府から発給されず、高額な関税がかけられてしまうという問題があり、これが解決できていないということです。

この件について、9月に「国境なきアーティストたち」代表のエクトル・シエラさんが日本連盟事務局を訪れ、

スリランカのスカウト連盟から招待状を発行してもらおうようお願いできないかという要請が出されました。これを受けて、現在、日本連盟からスリランカ連盟に事情を説明し招待状の発行ができるかどうか打診しています。結論がまだ出ていないため、はっきりした予定はたてられません、「国境なきアーティストたち」としては少なくとも2か月間スリランカに滞在し、何か所かで難民の子どもたちと「アートワークショップ」を行いたいとしています。

エクトル・シエラ代表は、過去にユーゴスラビア、チェチェン、東ティモールなどで、非常に困難な状況下で活動を実施してきたのだから、今回予定しているスリランカでの活動も、努力することによって成功させたいと言っています。

このキャンペーンにご協力いただいた指導者の皆様には、このような状況をご理解いただき、絵を描いてくれたスカウトたちに対して、「国境なきアーティストたち」が絵をスリランカに持っていくために努力中であることをご説明いただければと思います。

世界スカウト機構の資料を読もう！

A 報告

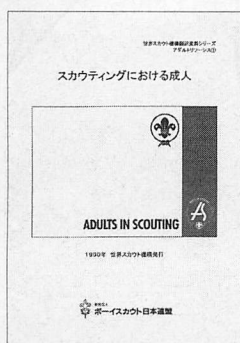
この度、世界スカウト機構の新しい資料が、9冊発行されました。既にアダルトリソース関連で、3冊発行されていますので合わせて12冊（下記写真参照）となりました。これまで世界スカウト機構からの出版物は、一般の加盟員の目に触れる機会はほとんどありませんでした。そのことが、日本のスカウティングが世界水準から大きく立ち遅れることにならないかとの危惧から、多くの資料を翻訳し加盟員の皆様にご提供できるよう取り組んでまいりました。必ずやスカウティングの現場で指導する上での参考となることと存じます。

尚、翻訳文作成にあたり、直訳するとニュアンスが微妙に違ってくる表現等日本語として必ずしも適合できない表現がどうしても発生してしまうことから、原文も添付されていますので読み比べていただければと存じます。

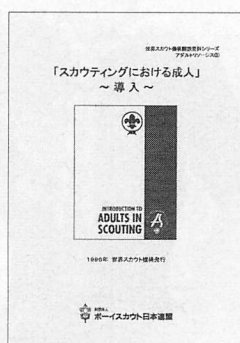
購入希望の方は、県連盟または、お近くの需品部までお問い合わせください。



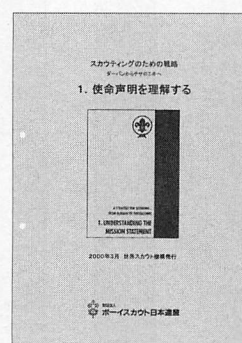
世界アダルトリソース方針
-69851 ¥150



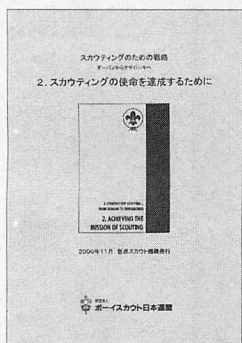
スカウティングにおける成人
-69853 ¥200



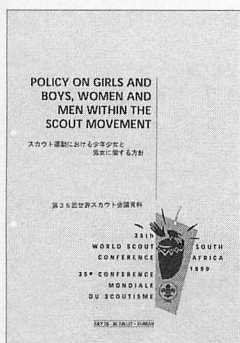
スカウティングにおける成人-導入
-69855 ¥250



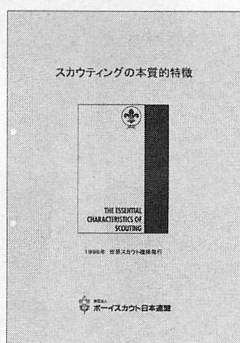
使命声明を理解する
-69857 ¥250



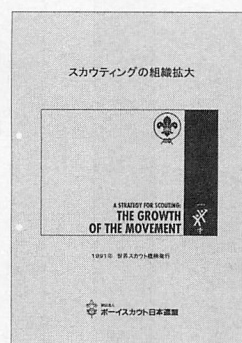
スカウティングの使命を達成するために
-69873 ¥400



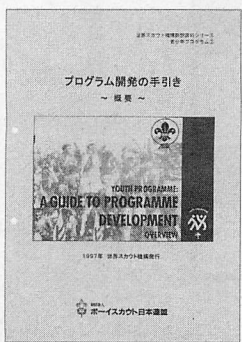
少年少女と男女に関する方針
-69859 ¥250



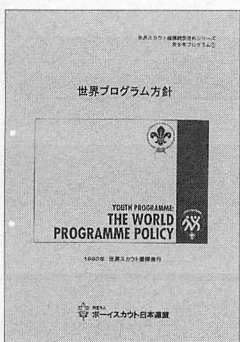
スカウティングの本質的特徴
-69861 ¥400



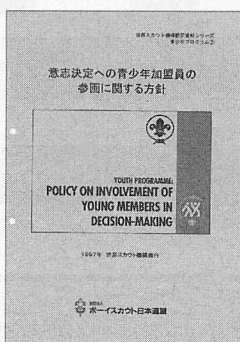
スカウティングの組織拡大
-69863 ¥200



プログラム開発の手引き-概要
-69865 ¥400



世界プログラム方針
-69867 ¥250

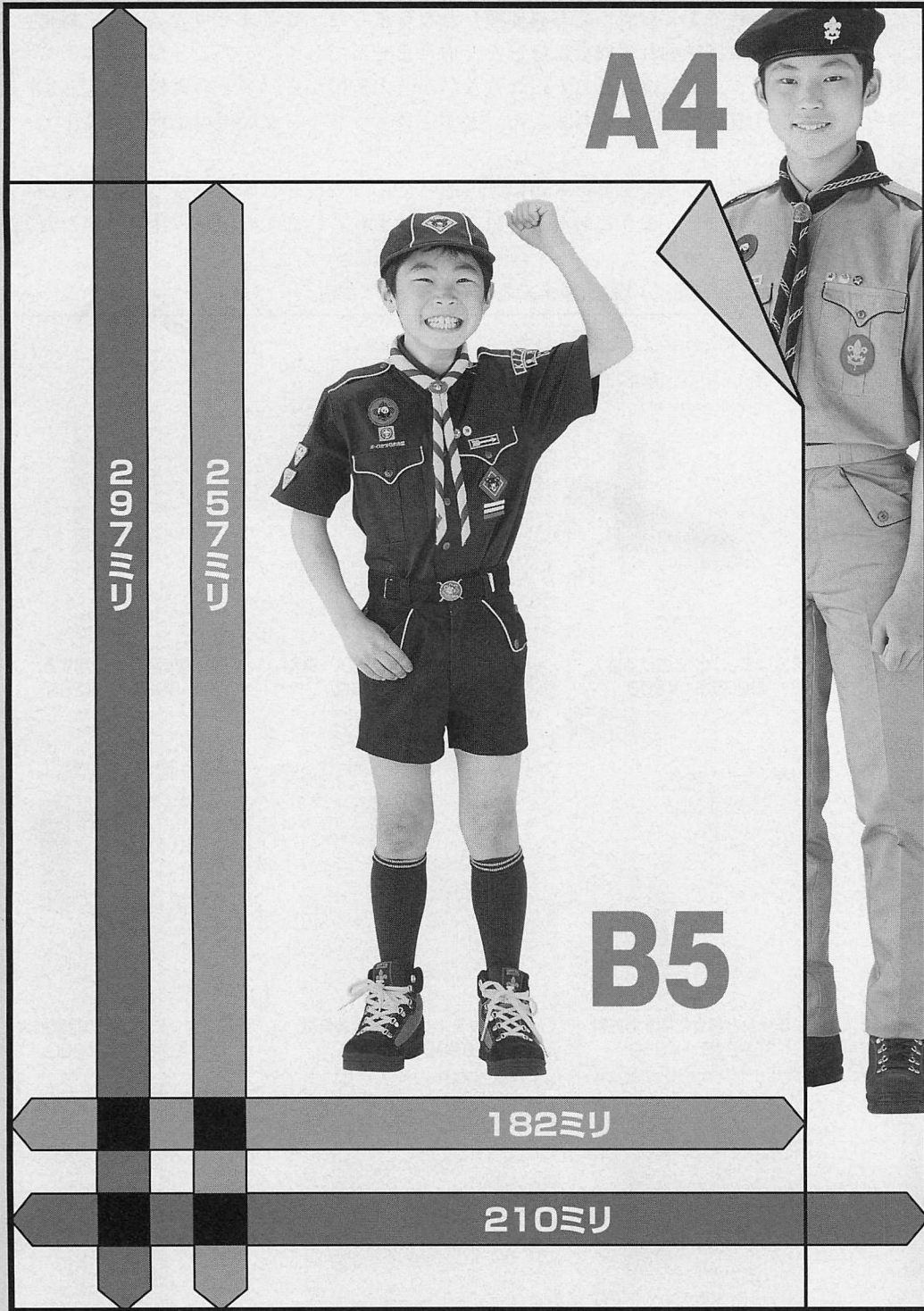


意志決定への青少年加盟員の参画
-69869 ¥300



スカウティングの実践
-69871 ¥400

カブからボーイへ……



スカウティングも上進いたします!!

2002年1月号から、『スカウティング』は、誌面が大きくなります。B5サイズからA4サイズへ…それはちょうどカブスカウトがボーイスカウトへ上進するような感じです。誌面が大きくなるだけではありません。情報量がアップする分、編集の内容もレベルアップ。21世紀のボーイスカウトの広報は大きく変わります。

日本連盟がタテのものをヨコにしました。②

先月号からほんの少しスタイルが変わったことにお気づきでしょうか。ボーイスカウト日本連盟の機関誌『スカウティング』は新しい一歩を踏み出しましたが、表紙のデザインと中綴じ頁が新しくなった以外は、これまでと印象はほとんど変わっていません。イメージをガラリと換えた表紙の写真はいかがですか？ 中綴じの頁は楽しんでいただけたでしょうか？ 2002年の1月号からはさらにパワーアップして、『スカウティング』は変わったなあ、と、読者の皆さんが思わずなるように内容を充実させていきたいと考えます。

編集の中身で勝負

サイズが大きくなるとか、文章がヨコ書きになるとか、写真がどうか、見た目のことばかりが先行して話題になっていますが、肝心なのは中身です。どんなにデザインがかったいい機関誌になったところで、ボーイスカウト活動の参考にならないような記事ばかり

では話になりません。日本連盟と加盟員一人ひとりを結ぶ情報の源として、常にベストな編集を心がけます。

見た目の体裁にしても、編集内容にしても、現在試行錯誤を繰り返しているところです。2か月後には、“これが新しい時代の『スカウティング』だ”と、加盟員の皆様が誇りに思えるような機関誌をお届けしたいと思います。

先月号、今月号をご覧ください、誌面づくりにご意見・ご要望がございましたら、遠慮なく日本連盟組織部広報課にお寄せください。



サイズが変わっても、タテがヨコになっても、ずっと変わらないものがあります。それは基本的な編集方針です。これからも『スカウティング』では、加盟員の皆様からのおたよりを募集します。「活動報告」「プログラムの作成で困ったこと、工夫したこと」「大会や行事の思い出」「日本連盟に対する意見や質問」など、どんな内容でもOKです。

現場で実際に活動されている指導者の生きた発言こそが、この運動を推進していくエネルギーとなるのです。そして全国で活動する多くの仲間たちのヒントとなるはずです。

この運動を愛し、情熱を注ぐすべての人の力によって『スカウティング』は支えられているのです。一人ひとりの信念や努力が、機関誌作りに直結しているのです。

これからもどしどしおたよりを送ってください。誌面の都合でご紹介できる数は限られますが、ひとつのテーマについて、掲載されたおたよりから全国に議論の輪が広がっていくことを目指しています。どうぞよろしくお願い致します。

例えば…

- 各部門プログラムヒント
- 我が団の恒例行事紹介
- 日本連盟にこれがいいたい!
- 指導者としていつも考えていること

すべての情報・おたよりはこちらの宛先へ

〒181-0015

東京都三鷹市大沢4-11-10

(財)ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課

FAX 0422-31-5162

E-mail bsn-pr@scout.or.jp

おたより大募集

INFORMATION volume.6 舞洲クリーン大作戦

第13回日本ジャンボリー

会場：大阪・舞洲^{まいしほ}スポーツアイランド

期間：2002年8月3日～7日

「新しい時代の風をうけて」

～とびだそう 人と文化の森へ～



来年第13NJでの全国の仲間たちとの出会いを待ちわびている「舞洲^{まいしほ}スポーツアイランド」が活動のホームグラウンドである大阪連盟なわ地区では、今年も9月15日スカウトの日に「カントリー大作戦」の一環として舞洲と淀川^{よどがわ}の接する岸に漂着するゴミの掃除を目的として「舞洲クリーン大作戦」を実施しました。

ジャンボリー会場を美しく!!

大阪・なにわ地区行事委員長 安達昌弘

一つの団から始まったこの奉仕作業も舞洲に13NJが決定し今や大阪連盟全体が成功へと邁進している中、昨年から地区が各団に呼びかけ今回は13こ団364人が参加しました。スカウトたちの「会場となるこの地を少しでもきれいにしよう」という意気込みが感じられ、活気あかつ意義のある活動に成長してきました。

当日は、今にも雨が降りそうな天候の下での国旗掲揚の後、ニューヨーク国際貿易センタービルでの大事件における多くの犠牲者に対し全員で黙祷を行い、後藤満舞洲管理センター長の感謝と激励の言葉等を頂開会式を行いました。

また、今回は、ベンチャースカウト有志のプロジェクトチーム“ゴミゼロバスターズ”が、地区コミッショナーと地区行事委員会の支援を得て全体を進行するというスカウト主導型の展開となり、地球環境を取り入れたスタンツやツールの説明を受け、大作戦をスタートさせました。

あちらこちらから、「何やこれ!」「凄いやな」「隊長こんな落ちてた」と声が飛び交い、みるみるきれいになっていく岸辺にスカウトたちの顔が満足げに輝きました。10人程で運ばなければならない“流木”や変わったものではどこかの神社の“お賽銭箱”などあるわあるわ、集計してみるとざっと2トン車約20台分はありました。地区安全管理委員会の救護所で3人の擦り傷の手当を受けたスカウトは出ましたが、スカウトたちの汗を流した分大きな成果が出せたと思います。

最後に閉会式で“大きなゴミ”“変わったゴミ”

などを拾った団に対しての表彰や福田地区委員長より特別賞が出るなど、大いに盛り上がったクリーン大作戦となりました。

13NJまで後10か月、スカウトたちの流した汗に答えるような“感動”“喜び”“希望”が体験できる「都市型ジャンボリー・13NJ」の大成功を目指してこれからも努力し貢献していきたいと思っています。



※淀川 琵琶湖に発源、京都盆地に出て盆地西端で木津川、桂川を合わせ、大阪平野を北東から南西に流れて大阪湾に注ぐ川（広辞苑による）

※大阪連盟なにわ地区（大阪市中部、中央区、北区、西区、福島区、此花区、港区、大正区、浪速区の8区）23こ団
特徴 宗教施設を育成母体になっている団が大多数であるが中にはライオンズクラブが育成母体の団や小学校を団本部にしている地域団もある

主要役員 地区協議会長 春田聖市
地区委員長 福田雅之
地区コミッショナー 堀端達真

※写真撮影 地区行事副委員長 田中利一

このかっこうで牧場を元気に走りまわって遊んだよ!!

撮影 栗原隆 (保護者)



埼玉・川口第18団のビーバー隊は西部劇のヒーローになりました。男の子は割ばしてっぽうをもってカウボーイに、女の子は可愛いインディアンに変身。



Beaver's Forum

ビーバー隊指導者・保護者のための

情報交換ページ

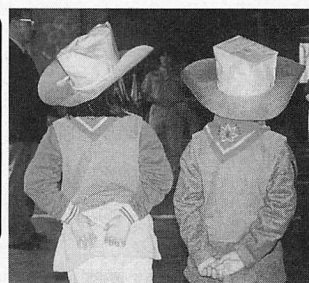


男の子 18,488名 女の子 4,158名
H13.3.31 現在 ビーバースカウト数

22,646名



ボースもきまってるね!!
撮影/茨城・千代田第一団ビーバー隊隊長 吉田徳子



ちよっと緊張気味のカウボーイ。手作りのカウボーイハットがかっこいい!!
撮影/奈良・生駒第九団団員 東川伊都子



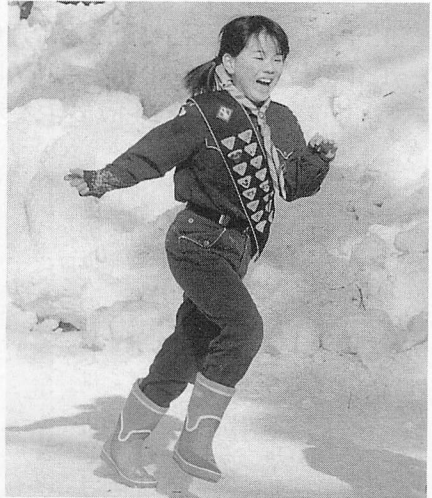
まっ白な雪の中で遊ぶ

— 氷点下のオニゴッコ —

北海道・札幌第九団カブ隊

降雪をあまり体験していない者にとって、北国の寒さは信じ難いところがあります。記者が訪れた朝の気温はマイナス〇度以下。地元の誰に聞いても、これは「普通の寒さ」だそうです。札幌といえば、雪というイメージが強いかもしれませんが。街中の道路などは、きちんと対策がとられているので路面に雪を見ることはありませんが、庭や公園は白一色。歩道の脇に積みあげられた雪の壁もかなりの迫力があります。

札幌第九団のカブスカウトたちはそんな寒さの中でも元気いっぱいです。雪まつりで有名な大通り公園から歩いて一〇分程（注・雪に足をとられながら歩いた記者は二倍以上の時間がかかった）のところにある本願寺がいつもの活動の場所だそうです。敷地内にあるスカウトハウスでは、大きなストーブが炊かれています。隊長が中心となって話し合っていたのは、雪像作りについてです。どんなデザインにしたいか、カブたちがそれぞれアイデアを出しあっていました。やはりアニメのキャラクターなどに人気が集まっている



雪の中でも寒さに負けないスカウト。
いつも元気いっぱい。

ようです。隊長は、その辺りをあらかじめ予測していたのか、いくつかのおもちゃのキャラクター人形を用意していました。

結局、何にするのか決まらないまま、スカウトたちは、お寺の境内へ。もちろん一面まっ白です。ここでバケツにきれいな雪を集めて固めるという作業をしました。スカウトたちが作る雪像の土台となる部分です。巨大なブリンのような雪の塊が、ポッコポッコとできあがりました。

今日の作業はここまで。外に出しておけば自然に凍るので、来週以降削ったり、くつつけたりして雪像を完成させるとのこと。年に数回降るか降らないかという地域の雪とは、少し意味が違うようです。半分以上が泥で汚れたような雪だるましか作ったことがない記者にとっては、札幌の寒さが、うらやましく思えました。雪という自然とのふれあい、創造性を養う素材としての雪、そして、元気に走りまわる遊び場としての白い世界。思う存分に雪を楽しんでいるスカウトたちを見ると、こち



雪像の土台です

らも寒さを忘れてしまいそうです。

スカウトたちが、雪の積もった境内でオニゴッコをはじめた時も、気温は氷点下。どこまでも明るい笑い声に白い息。うっすらと汗までかいているようです。まさにこのパワーには脱帽です。

フワフワした雪の特性を活かせれば、よりダイナミックな体を使った活動が可能になります。なにしろ「転んでも痛くない」環境は、スカウトたちにとっては強い味方となるはずです。雪になれていない地域のスカウトにとっては、体調の管理や服装等の注意点は多いと思いますが、機会があれば、ぜひ雪山やスキー場などの雪の積もっている場所への遠出を計画されることをおすすめします。

5 こ団合同年間プログラムへの取り組み

Hyoutanjima BS Osaka 19/57/73/74/106

Hyoutanjimaとは、平成13年度からの「合同プログラム」へ参加をする各隊の指導者や団委員長さんの情報交換やプログラムの企画調整のためのメール広場のことです。

「Hyoutanjima@isize.egroups.co.jp」

平成12年9月5日 106団 植森隊長にて開設されました。

- 立案
- 12年3月～4月頃に「年間 5隊合同プログラム」をやってみようと話がまとまりました。
 - 12年5月～6月頃に「合同年間プログラム」作成。
 - 12年9月～15年9月までの予定（3年計画の予定）。
 - 12年7月 各隊、団委員長さんに理解を求めるための報告書作成（73団 中井隊長作成）。
 - 12年8月27日 各団の団委員長・隊長による最終的な打ち合わせ。
合同年間プログラムの各団における承認。

われわれの大阪第一九・五七・七三・七四・一〇六団のボーイスカウトは、年間プログラムを五こ団で計画し、展開していくことについて議論をし合意している。その経緯は各団の団委員会にも連絡・報告をしているが、これまでの現場の隊長たちの議論と考え方をここにまとめて報告する。各隊の隊長・副長、各団の団委員長・団委員会の間で合同年間プログラムについての考え方をできるだけ合わせ、作業と展開をスムーズにし、各方面の理解と支援を受けたい。

魅力ある班対抗

言うまでもなく、ボーイスカウト活動の最大の特長は「班制度」と「進歩制度」である。とりわけ班制度は、班長を中心として班員たちが自分たちのことを自分で決める班自治を通じて、さらにそうした班が集まって競争をすることを通じて、スカウトが自分たちの力で学び成長していく、ボーイスカウトの特長で優れた教育システムである。我々隊指導者の仕事は、第一にスカウトたちの班自治を助けること、第二にスカウトたちが楽しみながら対抗意識をもつて挑戦することのできるような魅力ある班対抗のプログラムを提供することである。しかしながら、私たちの隊はいずれも、「魅力ある班対抗」プログラム・ゲームの最低条件である三こ班を編成することすら困難な状況である。つまり、自隊だけでは班制度・班対抗プログラムを満足に展開できていないのである。

これまでも私たちは機会のあるたびに、OSCAPやグリーンスピリットなど地区単位の行事を通じて、あるいはキャンプや運動会などで、複数の団の合同プログラムを展開してきた。この春に行われたグリーンスピリットのコンテストは、スカウトたちに班対抗のプログラムのおもしろさを分かってもらいたいと隊長たちが企画した。その結果、私たちはますます班対抗プログラムの充実の大切さを思うようになった。また、単発的な行事についても複数団の合同プログラムを実施してきた。スカウトも友団に友だちを持つこともでき、スタッフも多く集まることのできるのでプログラムの面でも充実ができたので、一定の成果をあげることができたとは思っている。しかしながら、お互いに面識のあまりないスカウトたちに本格的な班対抗意識を持たせることは難しい。魅力ある班対抗プログラムの提供という点から見ると、これまでの単発的な合同プログラムには限界があると考える。

そこで、私たちは年間を通じて合同プログラムを展開することを考えるに至った。面白い班対抗のゲームとプログラムのできる人数規模を確保すること、そしてそうしたゲーム・プログラムを継続的に繰り返すことで各班の班自治を確立し、班意識の高揚を図りたいと考えている。

スカウト、とりわけ班長が責任感を自覚してリーダーシップを発揮できるようにすること、そのためにはこの合同年間プログラムが必要なのだと思える。

合同年間プログラムの目的

合同年間プログラムの目的はおおよそ次の通りである。

Hyoutanjima プログラム H12.8~H13.8

- 12.8.19 Hyoutanjima 全体集会 (白峰会館にて)
スカウトたちに年間を通じてのニーズの出し合い
リーダーがまとめる
- 12.9.23~24 Hyoutanjima ケリパ・トレニグキャンプ
(貝塚ピクニックセンター)
- 12.10.29 スカウトピック (57.73.106.合同運動会)
(住之江養護学校グラウンド)
- 12.11.4~5 Hyoutanjima 新入歓迎キャンプ
(74団 狭山キャンプ場)
- 12.12.17 Hyoutanjima ハイキング
(堺市の横断) 1日雨でした
- 13.1.14 ボーリング大会 (19.57.73.合同)
(岸里ボウル)
昼から白峰会館にて救急法についての合同隊集会
内容: ショック・一般注意/止血法 73団の方が
講師をされました/三角巾を使つての応急
処置・ゲーム
- 13.2.18 Hyoutanjima B-P祭
(白峰会館にて) B-Pなべを作ろう
食材は各隊とも同一条件
1. BとPの付く物
2. スカウトのおきてに関する物
1~8まで8種類
- 13.3.10~11 Hyoutanjima トレーニングキャンプ
(74団 狭山キャンプ場)
- 13.4.28~30 Hyoutanjima スプリングキャンプ
(和歌山県日高郡由良町津久野 海岸でのキャンプ)
- 13.7.14~15 73団合同トレーニングキャンプ
(貝塚ピクニックセンター)
- 13.8.2~5 Hyoutanjima トレーニングキャンプ
(兵庫県由良町由良沖 成ヶ島)

●魅力ある班対抗プログラムのできるスカウトの人数規模を確保する。

●班対抗プログラムを一年間にわたって継続的に繰り返すことで(一回きりの合同行事ではないこと)、班対抗意識や班自治の意識を持たせることができるようにする。

●魅力ある班対抗プログラムのできるようにリーダーを確保しやすくする。

●なによりもスカウトはボーイスカウト活動本来のおもしろさである、班自治、班対抗をこれまで以上に楽しむことができる。

さらには次のような効果が期待できる。

●ベンチャー隊に上進したときに一緒にプロジェクトや活動をするような仲間ができる。

●ボーイ隊の活動が活性化することで、各団の上進率の向上が期待できる。

合同年間プログラムの手法

合同年間プログラムの手法は、隊長の間でこれからも議論して詰めることになるが、今までのところ団委員に報告すべきことは、次のようなものである。

●年間プログラムの計画の時点から、スカウト・リーダーで合同で立案していく。

●行事だけではなく、場合によって(特にプログラムの企画に関わる)班長会議も合同で行う。

●各団の行事もあるので全ての隊集会を合同行事で行うことは不可能であるが、班対抗プログラムは基本的に五こ団の合同行事として企画・実施していく。

●合同行事はキャンプとハイキングが多くなると思われるが、それに限らず年間プログラム会議や合同の班長会議で出されたスカウト側のニーズに因應するために、さまざまな行事について合同で行う。

●それぞれの合同行事については、

必ず事前に隊長から団委員会に報告し、承認を求める。

●団委員会で承認を得られなかったプログラムに関しては、その隊は参加しない。

●事情によっては、五こ団全てではなく二〜三こ団の合同プログラムも行う。

夏のキャンプ

合同年間プログラムの最後の総まとめが夏の長期野営である。その長期野営は、年間プログラムの訓練の最終的な目標でもある。この合同長期野営は本格的な固定キャンプの楽しさをスカウトに知ってもらいたいので、できれば無人島で四泊程度の日程で行いたいと思っている。

まとめ

年間を通じて合同プログラムを企画して展開していく。スカウトの数に恵まれていない現状においては、私たち現場の隊長たちは、この方法によってしか今のスカウトたちにスカウティングの本当の魅力を伝えることはできないと考える。

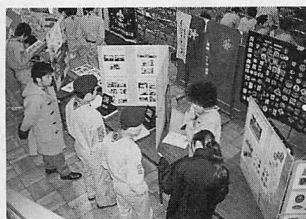
おれたちの50周年記念

ベンチャーの活躍

茨城・日立第1団ベンチャー隊 プロジェクト チーフ 大島良市
隊長 石本正樹



弥栄!!



展示物を前に
思い出を語りあう

多くの先輩たちに支えられ日立第1団もめでたく半世紀を迎えることになりました。
50周年式典を実施しましたので、ここにその時のベンチャーの活動状況を報告します。
準備は平成13年1月14日の団委員会ですその骨子が決められ、1月20日指導者、団委員、ベンチャースカウトが集まり役割分担を決め、ベンチャー隊は式典の企画・計画・実施運営を全て行うことになり、総務、レセプション、担当グループと、人員・準備資材の調達を実施しました。

また、姉妹団のニュージーランド・タウランガ第1団へも案内を出し、式典へのメッセージの依頼も実施し、当日はタウランガからのメッセージも読み上げることもできました。
一方では、記念式典を実施するに当たり、ベンチャー隊で「21世紀の活動提言」を纏め、式典で発表し、今後の活動の指針とすることもできました。

式典では多くのガールスカウト、ボーイスカウト各友好団の激励をうけ、華やかにかつ、厳粛なる記念すべき式典が実施できました。

進歩に関してはここ4年間連続して合計6人の富士スカウトを輩出できたことも、当団を取り巻く協力環境の良いこととして報告することができ、富士スカウト一人ひとりの紹介も行いました。

発団50周年記念

21世紀の活動提言

20世紀の初めに始まったこのボーイスカウト活動も100年になろうとしています、この間に多くの人達によって支えられ、多くのスカウト仲間がこの運動の大切さを理解し、実践し、受け継いできました。

しかし、世界に目をむけると、多くの我々と同世代の仲間が、スカウト運動を知らず、更には、環境も整わず、我々と同じような活動も出来ずに悩んでいます。

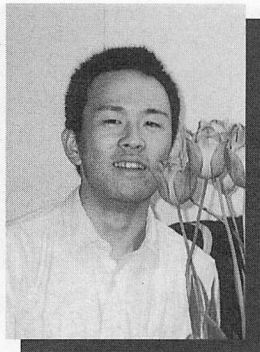
又我々の生活はこの100年、飛躍的に改善され、快適で文化的な生活が営めるようになりました。
ある面では、なに不自由することなく快適に過ごせるようにもなりましたが、しかしその代償として我々人間はこの大切な地球を破壊し尽くしてきたようにも思います。

このような問題を残し20世紀は終わり、多くの問題を持って21世紀がスタートしました、我々スカウトは今こそ、国際愛のもとに広く世界を見据え、そして身の回りで出来ることから実践し結果を出す必要が有ると強く感じました。そこで次の2つを今後の活動方針として提言します。

1. 全ての我々と同世代の仲間と手を結び、国際愛の元に、平和で希望に満ちた夢の有る世界を共に作るように活動します。
2. 一つしかないこの大切な地球を全ての生物が安心して生きていけるように、緑の地球を復活させるために全力を尽くして活動します。

世界を見つめ、そして身近で、出来ることからすぐ実践することをモットーに活動します。

平成13年3月31日
ボーイスカウト・日立第一団・ベンチャー隊 神長智至



鳥取・倉吉第3団
ローバー隊

—ローバースカウト 岡本 健くん追悼文集—

昨年春、倉吉第3団の1人のローバースカウトが亡くなりました。青山学院大学に在学中だった岡本健くんです。

彼に関しては、スカウトの仲間もわれわれ指導者もその思いには特別強いものがあり、しかも将来倉吉に帰って家業を嗣ぎスカウトの指導者になると明言していただけに、今もって無念至極でなりません。

そこで一周忌を前に「追悼文集」を作ろうという話が持ち上がり、写真のような文集ができて、彼の墓前に捧げることができました。また、彼のご両親をはじめとするご家族の方にも大いに喜んでいただきました。

ひとたびスカウトに
ちかいをたててなりし身は
死ぬときまでスカウトだ
この世のスカウトに
命捧げてつかえば
死して後もスカウトだ…

『健の鐘』

鳥取・倉吉第三団

カブ隊隊長

田村幹夫

私の家に今、下辺の片面に『OS LLO』その反対側に『健の鐘』と刻まれた西洋の教会の吊り鐘があります。健が亡くなってからしばらくした頃、骨董屋をしている私が山陰のあるオークションで手に入れたものです。

OS LLOと彫ってあるからには、元はノルウェーの首都オスロのどこかの教会に吊つてあった物には違いないと思いますが、いつどのように日本にもたらされたか定かではありません。

それを岡本健記念の鐘にしようと言われたのは門脇育成会長、命名したのは花池ベンチャー隊長、そして私がそれを富山県の高岡（日本の銅器産地）に送って『健の鐘』と刻んでもらいました。

この鐘ははずれ、みどり町奥のスカウトキャンプ場に吊して事あるごとに鳴らして使おうという事になっています。

そこは、スカウト岡本はもちろん、指導者にとっても他の多くの倉吉第三団スカウトにとっても、ここ数十年の思いが一杯詰まっている場所です。

そこでその鐘が鳴らされる度、その澄んだ響きは、ボーイスカウトとして少年時代を過ごした健とその仲間の楽しかった思い出を呼び起こしてくれるに違いありません。また、彼らに続く後輩スカウトたちが健やかに成長してくれる事への願いに通じるでしょう。

『健の鐘』はきつと、私たちボーイスカウト倉吉第三団の活動をいつまでも見守ってくれる物になると思います。

——二十一世紀最初の年

健くんの一周忌を前に——





作品募集

- テーマ 【ボーイスカウト】
 野外活動・奉仕活動・観察・研究発表・セレモニー・国際交流活動・行事
 他
 ボーイスカウトのすばらしさが伝わってくるような、元気なスカウトたちの姿、楽しい活動の様子をとらえた作品を募集します。
 ただし、スカウトはテーマ自由。
- 部門 【少年の部】 中学生以下
 【青年・成人の部】 高校生以上
- 締切 2002年2月28日 (当日消印有効)
- 応募方法 写真の裏に応募用紙を貼って送ってください。

- サイズ サービス判以上四つ切り以下。
- 審査委員 秋山庄太郎氏 (写真家)
 ボーイスカウト日本連盟審査委員
- 協賛 株式会社日本カメラ社
 全日本空輸株式会社
- 発表 『スカウティング』誌上。
 入選者には直接通知します。
- 応募上の注意
 - 応募作品は2001年1月以降に撮影した、コンテスト・印刷物などに未発表のものに限ります。
 - 応募作品はお返しいたしません。
 - 入賞作品は、ネガフィルム の提出をお願いします。
 - 応募作品は、入賞発表の他に、日本連盟の印刷物等に掲載することがあります。
 - 応募作品の使用権は主催者に属します。

応募用紙

点線で切り取って写真の裏に貼ってお出ください。

シャッターチャンスは
あなたのスグそこに…

■ 送り先・お問い合わせ

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
 (財) ボーイスカウト日本連盟
 「写真コンテスト」係
 ☎ 0422-31-5163

第29回 全国ボーイスカウト写真コンテスト

タイトル

(フリガナ)	年齢	性別	部門 少年・青年成人
名前	歳	男・女	職業 (学年)
住所 〒	都道府県	市区町村	作品についてのコメント
☎			
スカウトの方は加盟員ナンバー	所属	第 団 隊	役務

日本連盟からの

おしらせ

■ 九月中審議会の開催（報告）

九月九日（日）一時～一七時、千葉・山崎製パン厚生年金基金会館において、新藤議長はじめ議員二十二人の出席、参席八人により開催。協議結果は、次のとおりです。

〈協議事項〉

1. 登録状況について
 (1) 一三年度末の加盟員数が二二年度と同様、対前年度比八、〇〇〇人減と予想される事態を受け、対策等を協議。
 (2) 総務委員会から提案のあった、全国の各団委員長に対し、総コミッションナー・中央審議会議長名の緊急提言（アピール）「スカウトの胸に友情バッジ、各団が「十五、一〇」を達成しよう！」を送り、推進方をお願いすることが承認されました。
 (3) 全国理事長会議が来年一月の予定に加え、本年十一月一日（水）東京で開催の予定。全国理事長会議はじめ今後の各種会議において、緊急提言（アピール）の全国の各団での推進をお願いすることになりました。
 2. 新しいスカウティング誌の編集方針、価格、購読料徴収方法等について

七月中央審議会の決定（財政上の理由

から、本年一〇月号から、スカウト誌の発行を止め、スカウティング誌に統合）を受けて、総務委員会から提案のあった新機関誌について協議され、次のとおり承認されました。

- (1) 一四年四月号から、団配布一冊分の経費を各団に負担いただくこと、購読料の徴収方法は、登録申請時に、各県連盟が取りまとめ日本連盟に納入をお願いすることになりました。
 (2) 一四年二月号からの購読料は、次のとおりです。
 新しいスカウティング誌
 年間購読料 四、九〇〇円（税込込み）
 一部当たり定価 三九〇円（税抜き）
 機関誌の現在の価格設定は、製作・印刷製本の直接経費で算出されていましたが、次の各種経費を加え、定価を設定することになりました。
 取材費、依頼原稿料、写真費等の取材関連経費。発送委託費、郵便実費、封筒制費等の通信発送関連経費。拡販用チラシ

日本連盟FAX番号
0422
(31)
5162

印刷費等（四〇頁に関連記事）。

- (3) 一四年一月号から、体裁が刷新されます。
 ① B五判タテ組みから、A四判横組みに。
 (四〇頁→三二頁となるが、情報量は一二五倍に増えます。)
 ② スカウト向けのプログラムページをとり込む。
 ③ 表紙デザインの変更。
 3. 登録業務の見直しについて
 現行登録業務の改善について、事務局と専門家を含めたチームを編成し、検討を始めたことが報告・説明されました。協議の結果、団内における重複登録の扱い、登録証の在り方、事務処理方法等についてさらに協議を重ねることになりました。
 4. 機構改革特別委員会答申内容の今後の進め方について
 (1) 答申内容の今後の進め方について
 五月中央審議会の決定（五月一九日に受理した機構改革特別委員会答申内容の今後の進め方については関係する四人の役員が検討し、一案を作成する）を受けて、新藤議長から、今後の検討の進め方について次のような提案があり、承認されました。
 例えば「コミッションナー制度の在り方」については、県コミッションナー研究集会で、委員会答申内容について議論をお願いします。その後、中央審議会で協議されます。また、「全国会議の在り方」については、本日の

中央審議会の次の議題で、第二回目の協議が行われました。

この他、委員会答申内容の項目とされているのは、次の事項です。「日本連盟事務局の在り方」「中央名誉会議の在り方」「スカウトクラブの入会資格の拡大」「教育規定の再編成」「教育本部の審議決定のスピードアップと施行責任体制の確立」

(2) 全国会議に関する教育規定改正案

全国会議の教育規定改正案について第一回目の協議を行いました。規定改正のポイントは次のとおり。

① 全国会議は教育本部の会議ではなく、日本連盟の教育の中央機構としての会議です。(現行教育規定三十一②に基づく解釈)

② 全国会議は、団代表および県連盟代表が、教育に関する重要事項について、日本連盟理事会・教育本部の提案を受けて審議決定する機関です。(条文新設)

③ 以上のような全国会議の性格から、会議の招集者は、総長から理事長に改めます。また、理事・監事を全国会議議員に追加します。(条文新設)

この提案については、一〇月評議員会・理事会、理事長会議等に協議をお願いし、その後、中央審議会で一四年度全国会議に教育規定改正案の提案を目指し協議します。

5. 平成一四年度年次全国会議(福井市)の日程への追加事業について

(1) 組織拡充ステップアップ事例発表大会を実施すること

平成一四年五月一日(土) 福井市で開催される全国会議で、議案終了後、組織拡充ステップアップ事例発表大会(約一時間)を実施することが承認されました。全国会議の議案として、現時点で予定されているものは、事業報告・決算、事業計画・予算の他に、全国会議開催に関する教育規定改正案、第一四回日本ジャンボリーの開催等です。

(2) 二日目に、県コミ会議等を開催すること

全国会議の翌日、一九日(日)に県コミッションナー会議、理事長会議の開催を予定することが承認されました。

6. 活動着・セーター特別販売の今後の取り扱いについて

本年四月から、県連盟を通じて、活動着・セーター特別販売をお願いしていますが、まだ約四四、〇〇〇点の在庫があり、日本連盟としては、本年度末には在庫をゼロにしたい考えです。そのために、第二・三次の特別販売の実施が承認されました。

7. 七月中央審議会協議事項で、意見提出を依頼した事項について

(1) コミュニケーションを良くするには
(2) 新中央審議会、各種委員会の統合、ブック再編成の評価反省について

中央審議会構成員から提出された意見資料を配付し、次回に審議することになりました。

ました。

8. 平成一四年度重点目標について
事業計画・予算作成のためのスケジュールが承認されました。重点目標の協議は、一〇月中央審議会で行います。

9. 教育規定改正について

(1) 字句修正

教育規定中の字句修正(「都道府県連盟」と「県連盟」の使用方法)が承認。(施行日・九月一〇日)詳細は二月号に掲載。

(2) 施行細則「スカウトの海外渡航に関する基準」の一部改正

国際委員会から提出された「スカウトの海外渡航に関する教育規定、同施行細則の改正案」について説明があり、次回、審議することになりました。

10. (財) 国際交流協会の米国訪問に伴う、

米国連盟表敬訪問への同行者派遣について
(財) 国際交流協会の米国訪問団の一グループが九月一二日、米国連盟を表敬訪問することになり、この表敬訪問に日本のRS一人が同行することになりました。国際委員会での検討の結果、昨年の組織拡大で顕彰を受けた九県連盟のうち、スカウト人口の多い千葉県連盟に推薦依頼を行い、女子RS一人(富田華世・船橋第一六団ローパー隊)が派遣員として、九月一日〜四日(四日間) 米国を訪問することになりました。この派遣には久野桂理事が同行され

スカウティング誌

定価改訂等のお知らせ2

Q 新しい料金体系の概要はどうなっていますか？

A 一冊の単価は三九〇円。これに消費税を一九円いただいで、四〇九円となります。

年間購読いただいた場合はこの二倍から少しだけ端数をサービスさせていただいで、年間税込で四、九〇〇円です。

Q 送料の計算はどうなりますか？

A 今回の定価は、送料を別途頂戴しないよう設定しています。送料計算は不要、と考えていただいで大丈夫です。

Q 多数数を購読する場合の計算はどのようになりますか？

A 一冊年間四、九〇〇円を、単純に冊数でかけていただければOKです。一〇冊なら四九、〇〇〇円、という具合です。

Q 以前の一九〇円から比べると随分大きな値上げですね。

A 確かに大幅な値上げですが、こ

の九月まで二誌発行していたスカウト誌の一八〇円と、スカウティング

誌の一九〇円が合併になりましたので、その合計の三七〇円、二誌の年間購読料の五、六七〇円(送料込)と比較していただきたい、というのが正直なところではあります。二つの冊子が合わさっただけの内容を提供

していただけるよう、努力してまいります。

Q 金額設定はどのようになされましたか？

A 旧来の月刊誌の定価は、ほぼこれらの冊子を製作・印刷する実費部分のみを元に設定されてきました。そのため、その他発行にかかわる各種経費が毎月の支出として大きな存在でした。発行数をすべて売り切っても、発行部数が増えていっても、なお製作費の負担が残るという設定だったのです。

またこの旧価格はここ一三年間据え置きでまいりましたが、印刷業界

の相場的にもきわめて厳しいものとなってきており、この部分だけでも値上げの検討をせざるを得ない状況がここ数年続いておりました。

そこで、近年の日本連盟の厳しい財政状況にも鑑み、今後はその製作にかかる取材費や写真費など、諸々の経費を価格に盛り込んで、財政に負担をかけることなく末永く発行していただける価格設定としました。

Q では新しい定価で日本連盟が多少は潤うわけですか？

A 現在のところ、利益を上げるまでの設定ではありません。しかし少なくとも発行していくことで財政面を圧迫することのないよう、より厳密な原価計算に基づいた設定になつたとご理解ください。もちろん購読数が伸びれば、それだけ製作単価は下がりますので、多少は利益が出てくることにはなります。そうなれば、その利益の中から製作にかける費用を増やすことも可能となり、よりよい冊子を提供していただけることにもつながります。ぜひ、より多くのご購読をお願いしたいと思います。

Q 値上げに相当するくらいの内容の向上は期待できますか？

A 値上げに見合うよう、誌面をA4判に拡大することによる情報量の向上、一部ページのカラー化、および内容の充実を計っていくための取材力強化などに基づき試算を行っております。印刷製本等のハード面のコストは極力軽減し、各種経費もより合理的な方法を探り算出しております。値上げに見合うだけの内容の向上を果たしていただけるよう努力していきますので、読者の皆様のご判断を待ちたいところです。今後ともスカウティング誌をよろしく願います。

本年内からの年間購読は旧料金を含んだ計算となりますので、以下の料金になります。

一 一月号からの年間購読

|| 四六 五円

一 二月号からの年間購読

|| 四七 六円

|| 四七 六円

|| 四七 六円

隊長への手紙

信仰心を育むために

水を大切に（自然への感謝）

宗教関係代表者会議構成員 今井 香

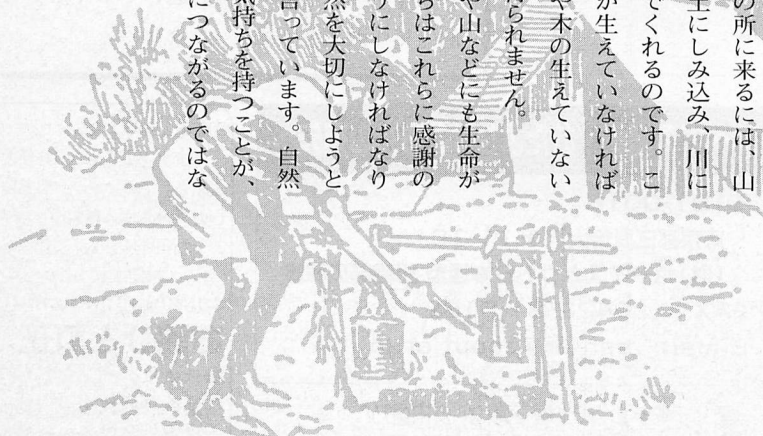
地球には、私共人間をはじめ、すべての物に生命があります。その中でも人間が生きて行く上で、切っても切れない大切な物は、水だと思えます。海を漂流していた人が、水があつたので何日も過ごせたとの新聞報道を読みました。キャンプ場を選ぶ時、一番大切なのは水の確保だと思います。水がなければ食事を作ること何もできません。水を運ぶのに遠いと大きな労力と時間を取らねばなりません。最近は大蛇道の発達により、キャンプ場なども蛇口をひねれば水が出る所が多くなり、水の重要性を見失いがちですが、常に水の大切さを考えるべきでしょう。

私の家は東京・隅田川の傍にありまして治水工事が進むまでは、よく水が出ました。明治四三年八月には雨が続き川が増水して、今にも堤防が切れそうで、村人は一生懸命土のうを積み重ねていました。その時私の祖父は桶屋を呼び、大きなみそ桶をもつてこさせ、井戸枠のまわりに積み上げました。この前の洪水の時に村中の井戸が濁流にのまれたので、せめてこの井戸だけでも助けたいと考えたのです。村人の努力もむなしく、堤防の一画が切れて、村中が大水となりました。村中の井戸という井戸は濁流にのまれ使いものになりませんでした。しかし、私の所の井戸はポツンと残っていたそうです。それから水が退くまで、その井戸に手押しポンプを取付け、村人の用水として使いました。祖父は「水が出た時には、水が大切なんだ。水を大切にすると共に水に感謝する気持ち

を忘れてはいけない」と話しておりました。

この水が私共の所に来るには、山に降った雨水が土にしみ込み、川になり私共に運んでくれるのです。これには山には木が生えていなければなりません。草や木の生えていない場合には清水は得られません。

これら木や草や山などにも生命があります。私たちはこれらに感謝の気持ちを持つようにしなければなりません。今、自然を大切にしようとする多くの人たちが言っています。自然に対する感謝の気持ちを持つことが、信仰を持つことにつながるのではないのでしょうか。



日本ジャンボリーに 皆さんの声を！

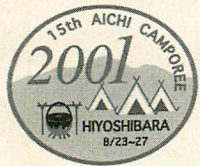
2002年はジャンボリーイヤー。ボーイスカウト最大のキャンプ大会までのカウントダウンもいよいよ300日を切りました。そこで、スカウティング誌上前夜祭的に皆でジャンボリーを語りあう記事を企画します。より楽しいジャンボリーにするための皆様のアイデア。過去12回の大会をふりかえってあれはよかった、これは感動したといったエピソードなどジャンボリーに関するお手紙を大募集します。もちろん反省を踏まえて躍進するための建設的なご意見も大歓迎！

■読者プレゼント

第15回ボーイスカウト愛知連盟野営大会を記念した小型記念印が使用されました。愛知連盟から記念はがきの贈呈をいただきました。ご希望の方は、はがきが入る大きさの返信用封筒の表に切手(80円)を貼り、住所氏名を記入の上、お申し込みください。

(1人1枚で先着順50人とさせていただきます)

さあ 踏みだそう 新世紀の第一歩



● 財団法人ボーイスカウト日本連盟 本誌掲載の写真、イラスト、記事のコピー・複製・転載を希望される場合は、日本連盟組織部広報課までご連絡ください。
● 「スカウティング」は、全国各団に1冊お送りしています。住所の誤り・変更がある場合は日本連盟組織部までご連絡ください。団配布分の購読料は、登録料に含まれています。
● 本誌のバックナンバーを希望されるときは、日本連盟組織部広報課までご注文ください。
● 環境保護のため、「スカウティング」(本文)は再生紙を使用しています。

すべての情報・おたよりはこちらの宛先へ

〒181-0015

東京都三鷹市大沢4-11-10

(財)ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課

FAX 0422-31-5162

E-mail bsn-pr@scout.or.jp

今月の表紙

モデル / 土屋 瞳 安田優乃
(東京・世田谷第3団)

撮影 / 中島古英
デザイン / 堀尾正己

新聞に載ったぞ!!

中学生 梅澤 正壽
(埼玉県 14歳)
キャンプ、ハイキング、ゴミ拾い、募金活動……。日常生活でほとんど体験することのないことをする。それがボーイスカウトだ。すごく楽しい活動だけれど仲間がなかなか増えない。僕の中学校でボーイスカウトをやっているのは、僕と弟と、あと10人だけだ。友達によく「ボーイスカウ

トって何をするの」と聞かれる。そのたびに、先に書いたことを話す。みんな「ふーん」とか「へー」で終わらせた。おもしろそうだな、入ってみたい」というのは聞いたことがない。僕は、中高年の登山ブームのようなボーイスカウトにもアピールを頼もう。それで仲間が増えたら、きつともっと楽しいと思う。

(朝日新聞 2001.8.20 読者のページ)

上の新聞の切り抜きは、埼玉・寄居第1団ボーイ隊の梅澤正壽くんが、夏休みの宿題の作文で何を書こうかと考えていたところ、やはり日頃から思っていたボーイスカウトの仲間がが一番よいだろうとなり書きあげたものだそうです。それを朝日新聞に投稿したら見事に掲載されたということです。この記事を見た鈴木国夫総コミッショナーからも激励の手紙をもらって感激の正壽くん。13NJにはベンチャーに上進して奉仕として参加したいと語ってくれました。

2002年1月号よりスカウティング誌の定価が改訂となります。綴じ込みの郵便振替用紙には旧価格表が表示されていますが、引き続きお申し込みにご使用いただけます。新料金につきましては今月号40頁、および10月号39頁をご参照ください。

新しい振替用紙は2002年1月号より綴じ込み予定です。

お詫びと訂正

●スカウティング8月号23頁の宗教章授与基準設置宗教派一覧のうち、仏教章の浄土真宗本願寺派の郵便番号に誤りがありました。訂正し、お詫び申し上げます

(誤) 600-0000 (正) 600-8501

13th NIPPON JAMBOREE

第13回 日本ジャンボリー記念品

■ピンバッジ 7

2.5cmφ
プリント
樹脂
加工

大会シンボル
マーク



-72583
¥250

■ピンバッジ 8

2.5cmφ
プリント
樹脂
加工

大会シンボル
マーク



-72585
¥250

■チーフリング 7

8.6×4.2cm
透明塩ビ

大会
シンボル
マーク



-72603
¥300

■ジッポーライター 1



5.5×3.5×1.2cm

大会シンボル
マーク
メタル付

ヘアライン
仕上げ

-72835
¥3,000

■Tシャツ 8・9



8 敬礼: ホワイト -72745 ¥1,000
(綿、着丈73、胸囲110、半袖丈21cm)
9 敬礼: アッシュ -72747 ¥1,000
(綿、着丈74、胸囲108、半袖丈22cm)

■ネックピース

全長55cm
ストラップ
ナスカン
カギフック
2個付き



-72815
¥500

■バックル 1 真鍮製

30mm幅ベルト用
ワニ口付
本体は35mm
幅まで対応



-72711
¥1,800

■バックル 2

ローラー式



-72713
¥600

スカウトショップ NEWS

■タオル 1

敬礼

34×80cm



-72801
¥500

■携帯電話用ストラップ

全長17cm



-72833
¥300

■ペンホルダー

- 1 クリア -72857
- 2 イエロー -72859
- 3 レッド -72861
- 4 グリーン -72863
- 5 ネイビー -72865

敬礼

天地6.5
左右3.5
ひも部分
35cm



表示の
価格に
ボールペン
は含み
ません

¥300

■ミニトートバッグ

日本連盟織ネーム付



20×33×14.5cm 綿
裏ビニールコーティング

黒 -72829 ¥700
紺 -72831 ¥700

■ご利用にあたってのお願い

- ご注文はBSカード専用の注文書がありますので、ご連絡いただければ送付いたします。
- 日本連盟のインターネットのホームページからダウンロードできます (<http://www.scout.or.jp/>)。
- お支払いにつきましては、ボーイスカウトカードのみの取り扱いとさせていただきます。
- ファクシミリ [0422-31-5169 スカウト用品専用] でご注文をお受けいたします。
- カードは計画的にご利用ください。



※当カードは、オリコ・UC・VISA取扱店や、海外のVISA取扱店でもご利用になれます。

★商品の表示価格には消費税は含まれておりません。外税として別途申し受けます。

★商品の情報はインターネットでもご覧になれます。 [<http://www.scout.or.jp/>]

「スカウト」に連載中から人気の高かった名作コミックが単行本に!

ボーイスカウトのアウトドア教室 スカウトもりもりコミック



まんが 荘司としお

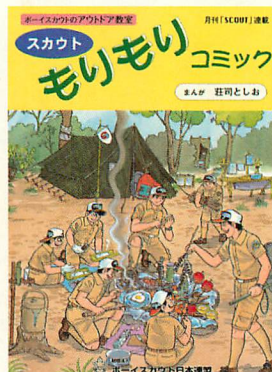
MORI MORI COMIC

好評発売中

新入団の記念品にピッタリ!

ボーイスカウトのアウトドア教室
スカウトもりもりコミック

まんが 荘司としお
A5判/定価700円



■ご注文は、県連盟またはお近くの需品部まで

SCOUTING

582

スカウティング

昭和33年12月15日 第3種郵便物認可
平成13年11月1日発行 毎月1回1日発行

発行 財団法人ボーイスカウト日本連盟
編集責任者 事務局長 高井英行
〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-1-10
電話 0422(31)5161(代)

定価 ¥190 (送料 ¥68)

郵便振替 00110-1-82610
口座名義 (財)ボーイスカウト日本連盟需品部





Club Scout 2001

AQUA

水は生命の源

人間にとって水はすごく大切なものだ。人間だけでなく、地球上に住むすべての生物にとってなくてはならないものなのだ。スカウトがキャンプをするときも、安全な飲み水を確保できるかどうか成功にかかっていると云えるだろう。水がなければノドが乾いてへろへろになるし、料理もできない…。

とにかく、水はすべての生命の源なのだ。大切に大切に扱うように心がけよう。



泳げるかどうか命にかかわることもある。マーメイドのようにバシャバシャ、スイスイと美しく泳ぐことができたなら、サイコーに気持ちいいのだが…。

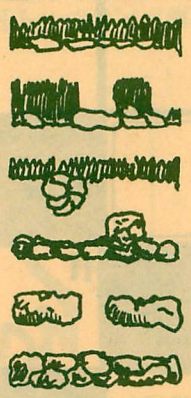


この地球上に最初に生き物が生まれたのは、今から約35億年ほど前。海の中でだと言われている。ほらね、やっぱり水は生命の源なわけ。大昔の海には生命のもとになるたんぱく質や、塩基と呼ばれる物質なんかがたくさん溶けていたそうだ。やがてこれらの物質が集まって細胞のようなものを作り、分裂して新しい細胞を作ることになったらしい。このあたりが生命のスタートラインだろうか？ それからまた時間が過ぎて…6億年前にはクラゲのような生き物が、5億年前には三葉虫やアンモナイトなどが登場してくるのだ。広い海に生命があふれ出した時代と言えよう。



アンモナイトの化石!?

こういうところに魚はかくれている？



川の大きな石の下などに、魚はじっとかくれていたりする。泳いでいる魚も、人の気配に「あっ、やばい!」と感じたら石のすき間などに逃げ込む。かくれている石に手頃な石をゴンッ!ってぶっつけて、魚が驚いたところを網ですくおう。



水を0℃以下に冷やすと、凍って氷になる。逆に火にかけてどんどん温めていくと、100℃で沸騰して水蒸気になってしまう。このように温度によって姿を変えることを「三態変化」という。氷も水も水蒸気も、もとは同じ種類の水の分子(H₂O)の小さなつぶでできている。

氷=固体：分子は強く結びつき、自由には動けない。水=液体：分子同士は引きつけあい、まとまった状態だが、力が弱いので形を変えたり分子の位置も変わる。水蒸気=気体：このときの分子は激しく動き回り、空中を自由に飛んでいる。



AQUA MISSION なぜ人は水に浮く?

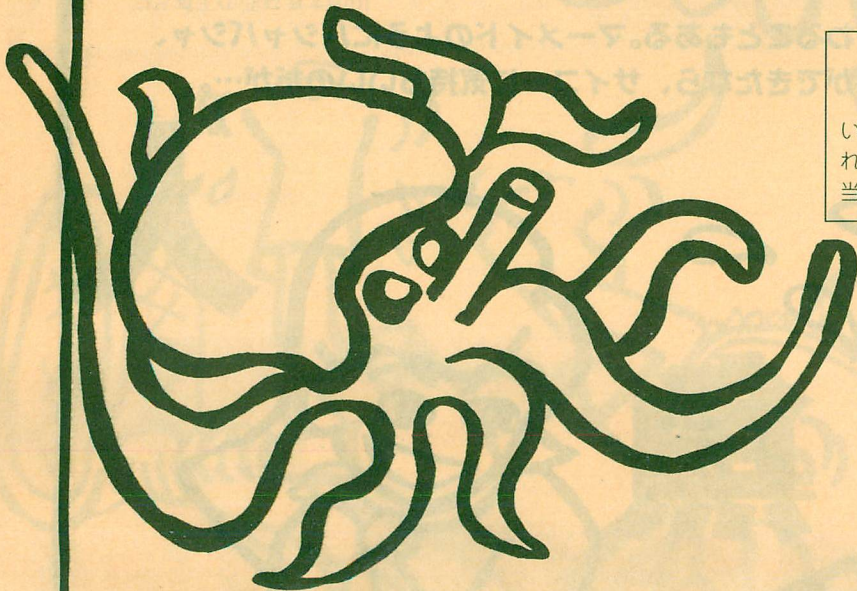
世の中には、水に浮かぶものと沈むものがある。木片は浮かぶが石は沈むのだ。そして、たいていの金属は沈むということになっている。だから、映画「ローマの休日」の舞台にもなったトレビの泉にコインを投げ入れるとポチャンと沈んでいくのだ。世界各国どの通貨であっても水底まで行くようになっている。

しかし日本の1円玉は、上手に扱うと水に浮かせることができるといわれている。伝説の沈まないコイン1円玉はアルミニウムで

できていて、比較的軽いのだ。水をいっぱいに入れた洗面器や水槽で実験してみるとわかるが、全神経を集中させてそっと水面に置かなければ沈んでしまうぞ。

水に浮くか沈むかは、それぞれの物質の特徴として決まっている比重、つまり同じ体積で比べたときに、水より軽いか重いかで決まる。水より比重が小さいと浮き、大きいと沈む。人間は水より比重が小さいから、必ず水に浮いて泳げるようにできているのだ。

水を容器いっぱいに入れて冷凍庫で冷やすと、氷が容器からあふれ、盛り上がってくるのがわかる。このことから、水は氷になると体積が増えるので、同じ体積だと氷の方が水より軽くなり、氷は水に浮くのだ。



浮沈判定クイズ

いろいろな素材で作っているものを持ち寄って、それぞれの浮・沈を予想し、当てっこをしてみよう。



では、水より比重が大きい1円玉は、なぜ浮かせることができるのか？これは、水の表面にいつも表面積を小さくしようとする働きがあるからだ。この働きを表面張力といい、これに支えられているのだ。

アメボが水面をスイスイすべっていくのも、表面張力が働いているからなのだ。

人間の体が、水に浮くギリギリセーフくらいの比重で本当によかった。もっと軽かったら、ゆっくりにお風呂にも入れなかったことだろう。

クロスワードパズル

S
S
C
R

■タテのカギ

1. 貸し自転車のこと
3. おおいぬ座の一等星で、冬の大三角のひとつ
4. 失敗! ○○をなくす努力を…
5. 水泳を英語で言うと…
10. シンデレラの馬車になったとさ
12. 幼稚園ではこれで絵を描いた
15. コレを掘ったら水が湧き出てくる?
- ㄨ. この誌面に描かれている海の生物

■ヨコのカギ

1. この果物の汁はすっぱい
2. 新鮮なお魚はこうやって食べる
6. 森の可愛い動物、木の実が好物
7. でっかい海、向こう側はアメリカ
8. 登りは大変、下りはラクチン?
9. 温泉…外国の保養地ってカンジ?
11. 文字や絵を描くとき使う色付の液体
13. 黒いコレが空をおおうと雨になる
14. 秋の味覚…房になっている
16. シャトルという羽根を打ち合うスポーツ

1				2	3	4
			5		6	
7	ㄨ					
8					9	10
			11		12	
13				14		
			15			
		16				

に入る文字をうまく並べるとある言葉になる。

(ヒント: アメリカの最上級)

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

WINTER SPORTS

水が凍ると氷になるわけで、これから寒い季節には、雪や氷の上でのスポーツに、スカウト諸君は挑戦しまくることになるだろう。

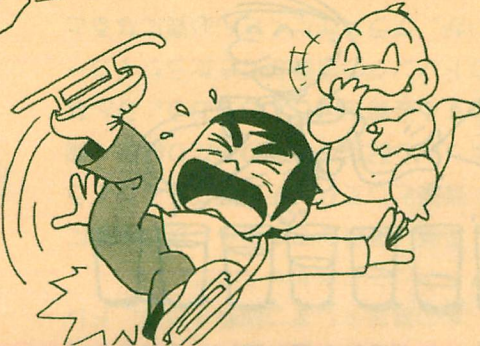
冬のスポーツといえば、スキーにスケートが代表的なところだろうか。雪があまり降らない、そんなに寒くならない地域に住むスカウトたちにとっては、こういった競技に参加するチャンス自体が少ないわけだから、ぜひ目標を持って積極的に取り組んでもらいたい。例えば、スキーであればジャンプラージヒルでK点を突破するとか、スケートなら、バックスケートからの3回転半ひねりの着地を安定させるなど、あまり高すぎない目標を立てた方がよいだろう。

9月までは「スカウト」に連載されていた「タイムトラベラー・トキオ」。スケートが苦手なトキオが転倒。AとBの絵では5か所違いがある。すべて見つけてほしい。

I can skate.



He can not skate very well.

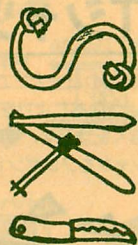
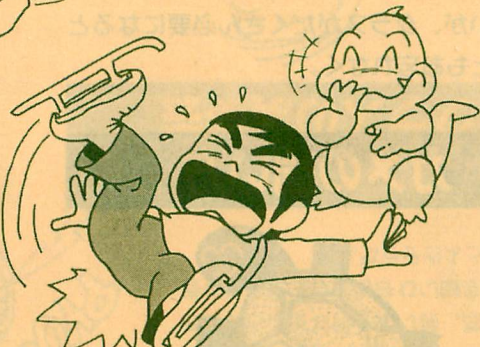


MACHIGAI SAGASHI

I can skate.



He can not skate very well.



日本列島は細長〜い地形になっているので、北の方に行けば結構雪が降る。というか、その気になりさえすれば、交通機関を利用してスキーやスノーボードのできるゲレンデに行くことは、そんなに困難なことではないはずだ。しかし、この場合、「寒そうだし、めんどうだな…」という思いがブレーキをかけてしまうことになりかねない。

「寒さを楽しみに行こう!」と心で念じれば、こわいものはない。すばらしい白銀の世界がスカウトたちを待っているのだ。スキー板をつけた経験のないスカウトもいるだろうが、ぜひこの冬はトライしてみよう。きっと楽しいはずだよ。



にごり水

ポリタンク

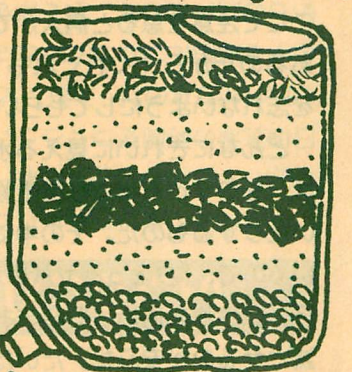
シロの皮か
サラシ布

砂

木炭

砂

小石



簡易ろ過装置

材料を集めて作ってみよう。ろ過した水でも完全には滅菌されていないので、煮沸してから飲む。

2002
A HAPPY
NEW
YEAR!



作品募集

Club Scout的 年賀状イラストコンテスト

かつて「スカウト」誌上で開催されていた年賀状コンテストが、Club Scout的にどことなく新しくなって静かに実施されます。美しい年賀状、おもしろいイラスト、かっこいいデザイン、これは一生懸命色を塗ったんだろうなあという作品は、誌上で紹介できるかもしれません。スカウトまたはスカウト関係者っぽい人は、誰でも応募できちゃいます。

- テーマ ①馬 ②スカウト活動 ③自由
- 応募締切 2002年1月5日頃
- 発表 たぶんClub Scoutの中で
できるといいでしょう。

全作品が掲載されるわけではありませんし、これといった賞品もないのですが、「載ったらラッキー! 目立っちゃおう!」系のノリで作品を送ってください。

〒181-0015 東京都三鷹市大沢4-11-10
宛先 ボーイスカウト日本連盟 組織部広報課
Club Scout「年賀状イラストコンテスト」係



先月号のMACHIGAI SAGASHIの答え

左側に立っている大きなアンテナの形/無線機の配線/JAMBOREEの「M」が「N」になっている/トキオの携帯電話/左端のスカウトのチーフリング



ALL JAPAN EPISODE OF AQUA

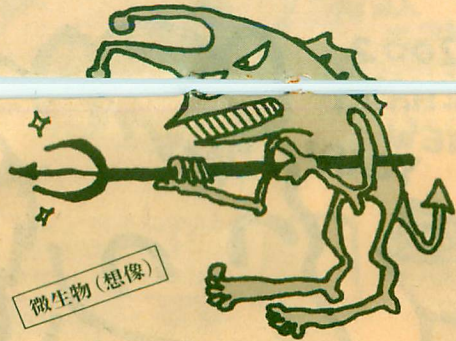
日本全国 おはなし



水の中の恐ろしい微生物

スカウト諸君がキャンプするときに、最も大切なもののひとつが「水」だ。泉や小川を見つけたら、一番良さそうな場所を飲み水用としてキープし、清潔にしておかねばならない。ここで注意を怠ると病人がでるおそれだってあるのだから、くれぐれも“清潔”の2文字を忘れないようにしてもらいたい。

どんなにきれいに見える水であっても、実は、ものすごく小さな微生物がウジャウジャいたりするものだ。その中には危険なやつもいるので、「ちょっとヤバめかな…」と思ったら、微生物を退治してしまおう。煮沸して全滅させるのが安心だ。だいたいにおいて悪いやつというのは丈夫なので、沸騰したからといっても即OK!とはならない。15分間はたっぷり沸かしまくり、冷やして飲む。こういう習慣をつけるようにしましょう。

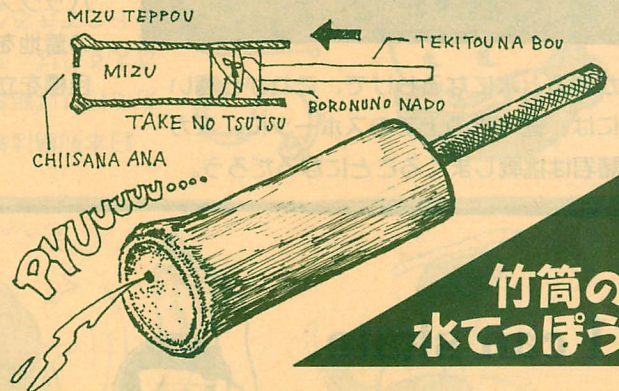


いつもきれいに

キャンプの楽しさに溺れていると、ついつい忘れてしまうのが“洗濯”だ。天気の良い日は洗濯の時間をつくろう。そしてもうひとつ忘れがちなのが“入浴”。といっても、自然の中で湯船につかって…とはなかなかいかないものだ。せめて、水で体をふいたり、簡易シャワーを作って水浴びをしよう。汚れた衣服、特に下着は毎日替えた方がよいだろう。不衛生は楽しいキャンプの敵である。スカウトは、いつも「キレイ」であってほしい。



竹を切り出して、水てっぽうを作ろう。作り方についてはイラストを見ればだいたい想像がつくだろうから、あとは適当に工夫を加えてほしい。押し出す方の棒にボロ布などを巻くところがポイントで、これがうまくいかないと水がこぼれてしまう。当然、勢いよく飛ばすこともできない。布を細いひも状にしてグルグル巻きにするとよさそうだ。



竹筒の水てっぽう

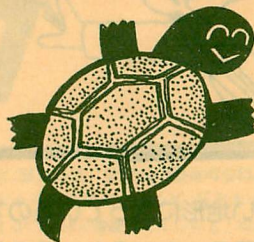
グラスの演奏会



水の入ったグラスを何か固いものでたたくと、「キーン」とか「コーン」とか音が出る。中に入れる水の量を変えれば、高さの違う音が出る。水の量を少しずつ調整すれば、ドレミファソ〜♪ってできちゃうのだ。

さて、見事に音階ができれば、次は演奏に挑戦だ。音楽としてバッチリ聴こえるかどうかはちょっと心配だが、そのあたりは聴く側にも協力する姿勢を示してもらおう。みんなでスカウトソングの合奏ができればサイコーに楽しいが、グラスがたくさん必要になるということもお忘れなく。

カメの飼い方



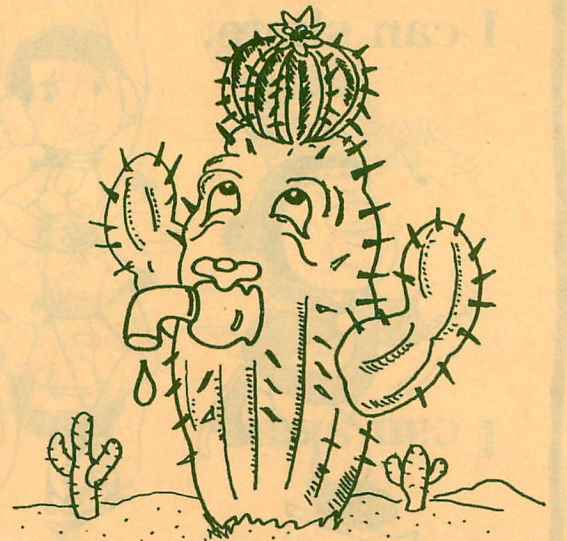
水に棲むカメ(クサガメ、イシガメ、ミドリガメなど)を飼ってみよう。

まず水槽を用意。小石や、カメがのっかる程度の石をゴロゴロと置いて、水を入れる。その際、水道の水をそのまま入れるのではなく、別の容器などに1日汲み置きしておくこと。水はときどきとりかえよう。水の温度は25~32℃くらい。エサは、レバー、しらす干し、鶏肉のミンチなど。ペットショップに売っているエサをやるのが無難かもしれない。

サボテンの秘密

地球上には、ほとんど雨が降らない地域がある。砂漠の風景に似合う植物といえば、サボテンの仲間が思い出されることだろう。

生命の源である水が極端に少ないこういう場所で植物が育つということは、それはそれは大変なことに違いない。だって、この次はいつ雨が降るかわからないのだ。水分を得ることができない状態がずっと続くかもしれない。そこで、サボテンをはじめとする多肉性の植物は、自分の身体の中に水をたっぷり貯めておく機能を身につけている。サボテン自体が水の容器なのだ。だから、砂漠でもたくましく生きていくことができるというわけ。



Tシャツプレゼント

Club Scoutのコーナーでは、みなさんからプログラムのヒントになるようなおたよりを大募集します。誌面に掲載された方にはもちろん記念品を、特に面白い情報をくれた人にはカッコイイ特製Tシャツをプレゼントします。楽しいおたよりお待ちしてます!

オリジナルデザインのおしゃれなTシャツの

